

# 第6回日韓知事会議等の概要

日程 平成29年(2017年)11月2日(木)～11月4日(土)

全 国 知 事 会

## 第6回日韓知事会議等の概要

平成29年11月2日（木）～11月4日（土）

I	全国知事会訪韓代表団名簿	1
II	滞在日程	2
III	要人表敬訪問	3
IV	第6回日韓知事会議	3
	1. プレゼンテーション及び意見交換	
	2. レセプション	
V	視察（行政視察）	52
参考資料1	第6回日韓知事会議共同発表	53

## I 全国知事会訪韓代表团名簿

団 長	全国知事会会長・京都府知事	山田 啓二
団 員	栃木県知事	福田 富一
団 員	鳥取県知事	平井 伸治
団 員	岡山県知事	伊原木 隆太
団 員	香川県知事	浜田 恵造
団 員	香川県副知事	西原 義一
団 員	長崎県副知事	里見 晋
随 員	京都府政策企画部企画監	田村 一郎
	京都府秘書課副課長	宮田 聖徳
	栃木県総合政策部総合政策課政策調整監	笹川 正憲
	栃木県総合政策部総合政策課秘書室副主幹	大根田 守
	鳥取県観光交流局交流推進課課長	遠藤 俊樹
	鳥取県観光交流局交流推進課国際交流員	愼 慧蘭
	岡山県総合政策局政策推進課課長	妹尾 浩志
	岡山県総合政策局政策推進課連携班副参事	大森 一浩
	香川県政策部次長	東田 晃拓
	香川県政策部政策課主任	紙本 尚幸
	長崎県秘書課係長	猪股 愼太郎
	長崎県ソウル事務所所長	鈴木 史朗
事務局	全国知事会事務総長	古尾谷 光男
	全国知事会総務部部長	宮嶋 和志
	全国知事会総務部副部長	大矢 豪稔
	全国知事会総務部参事	高柳 里美

## Ⅱ 滞在日程

日時	移動手段	時刻	場所	日程
11月 2日 (木)	航空機			○訪韓代表団 適宜ソウル到着 (会長(京都府知事)、鳥取県知事、香川県知事、長崎県副知事、事務総長)
		12:00	国務総理官邸	○李洛淵(イナギョン)国務総理との昼食会 (会長、鳥取県知事、香川県知事、長崎県副知事、事務総長)
		14:30	在大韓民国日本 国大使館	○長嶺大使との懇談(ブリーフィング) (会長、香川県知事、長崎県副知事、事務総長)
				○香川県知事 帰国 ○栃木県知事、岡山県知事 釜山到着
		19:30	在釜山日本国総 領事公邸	○道上総領事との懇談(ブリーフィング) (栃木県知事、岡山県知事、長崎県副知事、事務総長)
11月 3日 (金)		10:00	甘川文化村	○行政視察 (栃木県知事、岡山県知事、長崎県副知事、事務総長)
		12:00	龍湖湾	○釜山市長主催午餐 (会長、栃木県知事、鳥取県知事、岡山県知事、長崎県副知事、事務総長)
				○香川県副知事 釜山到着
		14:00 ～ 17:50	ヒルトン釜山 ボールルーム	○第6回日韓知事会議 (会長、栃木県知事、鳥取県知事、岡山県知事、香川県副知事、長崎県副知事、事務総長) *記念撮影、共同文書署名式あり
		18:00 ～ 20:00	ヒルトン釜山 ミーティングルーム1	○大韓民国市道知事協議会 会長主催記念レセプション (会長、栃木県知事、鳥取県知事、岡山県知事、香川県副知事、長崎県副知事、事務総長)
11月 4日 (土)	航空機		金海空港	○帰国

### Ⅲ 要人表敬訪問

李洛淵（イナギョン） 国務総理

【日 時】平成29年11月2日(木) 12:00～13:30 昼食会

【場 所】国務総理官邸

【参加者】（全国知事会）

山田啓二会長（京都府知事）、平井伸治鳥取県知事、

浜田恵造香川県知事、里見晋長崎県副知事、古尾谷光男事務総長

（大韓民国市道知事協議会）

金寛容会長、権泳洙事務総長

### Ⅳ 第6回日韓知事会議

#### 1. プレゼンテーション及び意見交換

【日 時】平成29年11月3日(金) 14:00～17:50

【場 所】ヒルトン釜山 ボールルーム

【参加者】（全国知事会）

山田啓二全国知事会会長（京都府知事）、福田富一栃木県知事、

平井伸治鳥取県知事、伊原木隆太岡山県知事、西原義一香川県副知事、

里見晋長崎県副知事、古尾谷光男事務総長

（大韓民国市道知事協議会）

金寛容大韓民国市道知事協議会会長（慶尚北道知事）、

金起炫蔚山広域市長、李春熙世宗特別自治市長、徐秉洙釜山広域市長、

権泳臻大邱広域市長、韓涇浩慶尚南道副知事、権泳洙事務総長

## ○司会

それでは、会議を開始いたします。

皆様、こんにちは。本日の司会を務めます大韓民国市道知事協議会国際化支援室長の趙百相（チョ・ベクサン）と申します。

ただいまより第6回日韓知事会議を開始いたします。

本日の会議の進行について、簡単にご説明いたします。まず、日韓両国の会長よりご挨拶と、そして本日お越しいただきました皆様のご紹介をいただきます。そして、続きまして、釜山市長の歓迎のご挨拶がございます。続く、第1セッションでは、栃木県、鳥取県、慶尚南道、長崎県の順番で事例発表をいただいた後、自由討論を行い、しばらく休憩の時間とさせていただきます。続きまして、第2セッションにおきましては、岡山県、釜山広域市、香川県、世宗特別自治市の事例発表と自由討論を行います。

そして、日韓両国会長の締めのお言葉をいただきます。第6回日韓知事会議の成果をもとに、日韓共同発表文の署名式を以降行わせていただきます。

そして会議の最後の順番に、記念写真を撮らせていただきます。

それでは、金寛容大韓民国市道知事協議会会長より皆様にご挨拶申し上げます。（拍手）

## ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

皆さん、こんにちは。大韓民国市道知事協議会、金寛容慶尚北道知事でございます。

倭館と朝鮮通信使を通じまして、日韓両国の交流の歴史が始まりました。こちら釜山にて、第6回日韓知事会議が開催されますことを大変うれしく存じます。

第6回目を迎えます日韓知事会議にご参加くださいました、日本全国知事会、山田啓二京都府知事を初めとする、日韓両国の知事の皆様、市長の皆様にお礼申し上げます、ようこそ韓国においでいただきました。

この世の全てのことは出会いから始まるという言葉がございます。互いに疎通し合い、理解をし合う中で、信頼と友情がさらに深まります。それを我々はご縁と呼ばせていただいています。

日本と韓国はさまざまな分野において影響を互いに及ぼし合い、ともに歩んでいくべきパートナーでございます。中央政府に比べ、利害関係が若干自由と言える地方政府の努力がより重要な、この時代を迎えております。その貴重な出会いの現場が、まさに日韓知事会議ではないでしょうか。今後大韓民国市道知事協議会は、日本との交流、協力を促進し、そして充実化したものとさせていただきたいと思っております。

本日、6回目を迎えますこの会議は、災害対策及び復興施策と地域経済活性化に向けた都市再生推進政策に関する議論の場です。

このところ、韓国も地震が頻繁に発生しており、地震に関する対策が主な課題として浮上しています。

本日は、日本から学ばせていただきたいと思います。各種の政策を韓国も実行

しておりますけれども、日本の優秀事例をまた学べる、本日はすばらしい学習の場ではないでしょうか。また、韓国の国民も多くに関心を向けている状況でございます。

また、韓国におけるこの都市再生は、これ以上待たなしの喫緊の課題となっております。日本も同じくそういう状況ではないでしょうか。韓国は、地域住民が主導し、地域ならではの特徴を生かせる、カスタマイズ化された都市再生を目指しています。日本の地方政府もこの都市再生を積極的に進めていらっしゃると思いますが、何とぞ、さまざまな事例を本日共有し合い、知恵を絞り合う、そのような時間となっていただきますことをご期待申し上げます。

改めまして、韓国ご訪問いただきました日本の代表団の皆様を心より歓迎申し上げます、本会議が成功裏に開催されますよう、皆様、最後までお付き合いいただきたいと思っております。

特に本日、釜山市長は、早朝からこの会議のため、ご尽力くださいました。そして、釜山市長におかれまして、大変情の深い方でございます。よい時間送れますことをご期待申し上げます。ありがとうございました。（拍手）

それでは我々、韓国側の市道知事の参加者をご紹介します。

既にお会いしておりますけれども、改めて、釜山広域市、徐秉洙市長、お見えます。大きな拍手でお迎えください。（拍手）

続きまして、昼食も抜きで、本当に駆けつけてくださいました、お弁当で申しわけございません。大邱広域市、権泳臻市長でございます。（拍手）

続きまして、大韓民国市道知事協議会副会長の蔚山広域市、金起炫市長でいらっしゃいます。（拍手）

そして、世宗特別自治市、李春熙市長が、本日、お見えの予定でございますが、若干遅れるようなので、また改めてご紹介させていただきます。

続きまして、慶尚南道、韓陞浩知事権限代行でございます。（拍手）

慶尚南道におかれましては、知事が現在、韓国党の代表ということでございまして、やはり選挙期間が大変短く、補欠選挙ができないということで、現在権限代行という状況でございます。

韓国側は以上です。ありがとうございます。（拍手）

## ○司会

会長、親切なご紹介ありがとうございました。

続きまして、山田啓二、日本の知事会長より日本側の参加者をご紹介します。たいと思っております。

## ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

それでは、最初に一言挨拶をさせていただきたい思います。

改めまして、第6回の日韓知事会議の開会に当たりまして、会長であります金寛容慶尚北道知事を初め、大韓民国の全国市道知事協議会の代表の皆さんにおかれましては、すばらしい会場のしつらえと、そして我々日本からの訪韓団を温か

く迎えていただき、心からお礼を申し上げます。特に徐秉洙釜山広域市長さんにおかれましては、大変すばらしいお昼のおもてなしをしていただきまして、本当にありがとうございました。

今回、日韓知事会議をこの韓国の釜山で開催させていただきます。2015年以来、2年ぶりとなりますこの日韓の知事会議は、1999年に始まりまして、これまで20年近くにわたって行われてまいりました。ただ途中、第4回と第5回の間が、かなり年月があいてしまいました。いろいろと難しい問題や、それぞれの国の事情もあったわけでありまして、2015年に、久しぶりにこの会議が行われ、その後は大変順調に、両国の知事、市長さんの間で意見交換が行われることをうれしく思っております。特に、私はこうした日韓の知事会議の必要性というのは、2つの点から、今や非常に大きくなってきているのではないかと考えております。

1点目は、いよいよ日本と韓国の交流往来が、去年700万人を超え、今年は、もしかしたら900万人ぐらいまで行くのではないのでしょうか。来年は平昌のオリンピックがありますから、いよいよ日韓1,000万人交流時代が目の前に迫ってきていると言っても過言ではないと思います。両国関係はいまだかつてないほどの大交流時代を迎えているわけでありまして、そうした点からも、国と国との関係はもとより、地方自治体同士の関係というものは、これから大きく進展をする時代を迎えたと思っております、それだけに相互の意思疎通、顔の見える関係を築くことの重要性というものは、今、大変大きくなってきているのではないかとと思います。

もう1点は、私どもが一番近い国の関係、隣国の関係にあるわけでありまして。どうしても隣の国同士になりますと、違うところに目が行きがちになりますけれども、それ以上に同質性、同じ問題、同じ課題を抱えているという点では、我々は、一つの地域にいると言えるのではないかと思っており、今日お話をする災害の問題などはまさに当てはまっております。気候に国境はありません。最近の温暖化の影響などから、急激に雨が降り、そして洪水が起きてしまいます。こうした問題は、まさに一衣帯水の隣国ならではの問題でありますし、また、それぞれが抱えている、例えば少子高齢化の問題、都市再生の問題、本当に似通った問題を抱えているのが日韓両国ではないかと思っております。そしてその問題の最前線で闘っているのが、今日お集まりの皆さんであります。それだけに、この日韓の知事会議というものが、これからの両国の交流を深める役割だけではなくて、お互いが抱えている問題の解決に当たっても、本当に大きな役割を果たす時期が来ているのではないかと思っております。

同じ課題を抱えた隣国同士が、これからもこの会議を通じて、頻りに意見を交換し、顔と顔の見える関係を作っていくということが、実は日韓の両国関係における、重要な基礎をこれから作り上げていくことになるのではないかなということを感じて次第であります。それだけに、本日は忌憚のない意見交換を行い、お互いの思ったことをしっかりと主張しながら、すばらしいウィン・ウィンの関係がつかれるような会議になることを心から願ひまして、私の挨拶とさせてい



ただきたいと思います。

それでは、私から日本側の出席者をご紹介します。

まず、こちらからでありますけれども、福田富一栃木県知事であります。

○福田富一栃木県知事

アンニョンハシムニカ。（拍手）

○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

そして、平井伸治鳥取県知事であります。

○平井伸治鳥取県知事

アンニョンハシムニカ。（拍手）

○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

次が、伊原木隆太岡山県知事です。

○伊原木隆太岡山県知事

アンニョンハシムニカ。（拍手）

○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

続きまして、西原義一香川県副知事です。

○西原義一香川県副知事

こんにちは。（拍手）

○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

実は浜田知事が、ソウルまでは同行されたのですが、どうしても今日は、帰らなくてはいけなくなりましたので、西原副知事さんに来ていただきました。

そして、里見晋長崎県副知事であります。

○里見晋長崎県副知事

よろしくお願いします。（拍手）

○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

長崎県は、釜山と、大変友好的な関係にある県ということで、中村知事がどうしても来られなかったので、里見晋長崎県副知事を送るという、知事からの温かいお言葉で、今日、来ていただきました。

日本側の出席者は以上であります。

○司会

山田会長のご挨拶と、そしてご紹介がございました。

続きまして、釜山広域市、徐秉洙市長より歓迎のご挨拶申し上げます。（拍手）

### ○徐秉洙釜山広域市長

本日、天気がすばらしい小春日和ということでございまして、そういう中、会議をするということになりました。主催する市長として、大変喜ばしい気持ちでいっぱいでございます。

市政活動、道政活動でお忙しい中にもかかわらず、釜山市にご訪問くださいました、山田啓二日本全国知事会会長並びに金寛容大韓民国市道知事協議会の会長を初めとする、日韓両国の市道知事の皆様、そして関係する公務員の皆様、釜山によろこそおいでになりました。

2008年、ソウルにて開催されてから、韓国での本会議はほぼ10年ぶりに、こちら釜山で開催されますことを大変うれしく存じております。

釜山は、北東アジア最大のトランジットを保有するグローバル海洋都市であり、ヨーロッパとアジアをつなぐユーラシア鉄道網の出発点である釜山駅がある韓国の関門都市となっております。

釜山は、地理的にも日本と大変隣接した位置にございます。そして経済や文化など、多方面にわたって人と物の交流が活発になされているという点から、どの都市にも増して、日本との交流、協力を強化しております。特に下関市と交互で実施をしております朝鮮通信使の行列再現は、日韓の友好協力の歴史の象徴でございました。長崎県の対馬市におかれましては、朝鮮通信使の連絡本議会の本部があるなど、活発な交流がこれまでされている状況でございます。また、このところ、日韓両国の共同努力でもって、朝鮮通信使が世界記憶遺産としてユネスコに登録されたことによって、両国間の交流が一層活発になることが期待されております。

このグローバル時代において、日韓両国は、ほかの国にも増して、相互間の協力でもって実現できる利益というものが大変大きい部分を占めていると思います。各種の災難、災害発生による住民安全対策づくりが求められている現実の中、地震や原発災害など、防災に格別なノウハウ、システムを備えてらっしゃる日本との相互ベンチマークは、安全以上に、両国国民ともに幸せな未来をつくれる土台になるのではないのでしょうか。

本日、我々が真心を込め、この日韓知事会議という木に水を注ぎ、それを育てていけば、この友情と信頼という両国関係の根っこもさらに丈夫なものとなり、豊かな実を結ぶでしょう。我々は朝鮮通信使という交流を含め、このような木を育てた歴史、伝統を持っております。本日、この場が持続可能なものとなり、恒常的な都市成長を効率的に達成する地方政府のさまざまな都市再生戦略と災害、安全政策を共有する意義深い場になることをご期待申し上げます。

1999年、初めての会議が開催されて以降、これまで培われてきた両国の信頼と友情をもとに、より希望あふれる共同繁栄の道が、今後開かれますことを期

待しながら、本日、この場にお越しくございました皆様のますますのご発展とご多幸を祈念いたします。

私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。（拍手）

## ○司会

徐秉洙市長の温かい歓迎のご挨拶でございました。

続きまして、事例発表と自由討論に入らせていただきます。

以降、進行は、両国の会長共同でお願い申し上げます。

## ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

それでは、ただいまより、私と、そして誇らしい山田啓二会長共同で、本日の会議を進行させていただきます。

まず、日本側の発表から頂戴いたします。山田啓二会長、それでは、進行、お願い申し上げます。

## ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

遠くから来たほうから先に発表させていただきますことをお許しいただきたいと思えます。

第1セッション、災害対策でありまして、多分災害は、日本のほうが多いかなと思えますので、その災害対策について、最初に、福田栃木県知事からご発言をお願いしたいと思えます。

福田知事、お願いいたします。

## ○福田富一栃木県知事

栃木県の福田富一でございます。

本日は、栃木県の防災対策につきましてお話を申し上げますけれども、まず栃木県について、簡単にご紹介をしたいと思います。

先程来、とちまるくんが、栃木県のマスコットキャラクターですけれども、画面に映っておりました。また、ベリーグッドローカルとちぎという、栃木県としては地方の、日本のモデルになっていこうということで、キャッチフレーズをつくったところでございます。

さて、先ほど釜山の市長さんからお話ありましたように、朝鮮通信使が世界記憶遺産登録になりまして、大変うれしく思っております。私どもの日光にも3回、朝鮮通信使の方がおいでになりまして、日光の東照宮と輪王寺の2カ所に貴重な資料がおさめられております。そんな中、今日はこうして発表の機会を得ることができました。本当にうれしく思っております。

ところで、2月には平昌オリンピックですけれども、栃木県にはアイスホッケー、日光アイスバックスというアイスホッケーチームを持っておりまして、国内4チームしか、日本ではありませんので、アジアリーグという形で試合を行っていますけれども、韓国と中国とロシアに入ってもらっていますが、合計9チーム

ですけれども、5、6年前までは、日本の、日光のアイスバックスも何とか韓国のチームと互角に戦っていたんですけれども、最近は全く歯がたちませんで、アニャンハルラ、それから、デミョンキラーホエールズ、ハイワン、こういったチームと戦っております。ぜひアイスホッケーは金メダルを、韓国のチームにとってほしいと心から願っております。

さて、栃木県は、首都東京から100キロの位置にありまして、面積は、金寛容会長のおられる慶尚北道の3分の1、約6,500平方キロメートルでございます。人口200万人でございます。県庁所在地の宇都宮市は、人口50万の都市でございます。新幹線で約1時間でございます。東京の会社に通勤している人もたくさんおります、非常に交通の便のよいところです。成田、羽田などの空港からのアクセスも非常によい土地柄でございます。

また、東京から日帰りできる立地でありますことから、海外からの多くのお客様をお迎えしております。特に世界遺産であります日光の社寺、左上ですけれども、写真は、これが有名でございます、東照宮の陽明門ですけれども、44年ぶりに大修繕を終えまして、今年3月、そのけんらん豪華な姿を見せることができました。ほかにも、上、右側のCNNが選んだ世界の夢の旅行先10カ所に選ばれましたあしかがフラワーパークの大藤、あるいは情緒漂う数多くの温泉、昔の採石場跡地であります、地下30メートルの広大な空間が広がり、独特の雰囲気醸し出す大谷資料館など、見どころがたくさんありますので、どうぞお出かけをいただきたいと思っております。

伝統工芸品も、これまた豊かでございます。益子焼、それから、結城つむぎ、これは世界遺産に、ユネスコ無形文化遺産に登録されております織物でございます。日光東照宮社殿造営の技術が受け継がれる日光彫、そして韓国を初め、海外でも人気が高まっております、(韓国の)順天市とさつきの交流を行っていません鹿沼のさつきなど、さまざまなものがございます。

おいしいものもたくさんありまして、何と云っても栃木県は、イチゴの生産量50年間日本一の県でございます。最近はスカイベリーという粒の大きい高級イチゴも売り出しました。宇都宮のギョーザ、それから、佐野のラーメンも栃木を訪れる外国の方に気に入ってもらっているグルメでございます。とちぎ和牛につきましては、日本で和牛オリンピックと称されます大会でも優秀な成績をおさめております。このほかにも、おいしいものもたくさんあります。栃木の食も大いに楽しんでいただきたいと思っております。

前置きが長くなりましたが、このような栃木県の防災対策について申し上げます。

山田会長から韓国よりも日本の方が災害多いねという話がありましたけれども、そのとおりだと思います。そんな中にありまして、栃木県は、比較的災害の少ない県だと言われております。それでも50年に1度の規模を超えと言われる、2015年の関東・東北豪雨災害に対応した経験もありますので、その対応状況、あるいは大規模災害に備え、日ごろから栃木県が行っている防災対策についてご紹介をいたします。

また、2011年3月11日には、東日本大震災が発生しました。また、福島原発事故も起こりました。韓国の多くの皆様方からもご支援をいただきましたこと、この場をおかりして御礼を申し上げます。

それらを契機としまして、自助、互助、共助、公助の推進を基本理念とした災害に強いとちぎづくり条例を2014年に制定いたしました。これまでは公的機関による防災対策であります公助が中心でしたが、加えて、個人の取り組みであります自助、地域における住民などが助け合う互助、学校や企業などが連携する共助を進めることといたしました。多様な主体が連携、協力することで、災害へ対応する能力を高め、全ての県民が安心して暮らすことができる社会の構築を目指すこととしております。また、この条例の中で、東日本大震災が発生した3月11日をとちぎ防災の日と決めまして、防災対策の重要性について県民などが理解を深める日としているところでございます。

次に、大規模災害が発生した際に迅速に対応するための体制であります。私、知事をトップとしまして、県庁の全組織を挙げて災害対応に当たるための災害対策本部を設置することとしております。そして被災した市町村に県職員を派遣し、被害状況を把握するとともに、人や物資など、必要な支援を迅速に行うこととしております。

それでは、実際に起きました災害と栃木県が実施した具体的な対応を紹介いたします。

2015年の9月、2年前ですけれども、積乱雲が帯状に重なる、ちょうどこの地図の真ん中の赤いところが栃木県の日光を中心としたところですが、線状降水帯という、赤で示した大雨のところがいままでたっても動かないという状態が発生しまして、記録的な大雨をもたらしました。栃木県を含む関東地方、そして東北地方の多くの場所でも、最大24時間降水量が観測史上最多を更新しました。画面にありますとおり、一番多いところは、24時間で550ミリ降っております。後に気象庁によりますと、平成27年9月関東・東北豪雨と命名されたわけでございます。栃木県では初めて大雨特別警報というのが発表されたわけですが、50年に1度の規模を超えるという大雨に、極めて危険な状況が続きました。県内各地で土砂崩れなどが発生しまして、死傷者、亡くなった方とけがをした方、9名、床上、床下浸水も5,000件を超える被害となりまして、被害総額ですと350億円程度になったところでございます。

この状況に対しまして、栃木県では、災害対策本部を設置して、被害の最小化に努めました。大雨特別警報が発表され、県内の河川の水位が上昇して、危険な状況となった段階で、知事ホットラインという仕組みを発動しました。被害が予想される県内の7つの市町村の首長に対しまして、私が直接電話をして、避難勧告などに関する助言、情報提供を行いました。時間は夜中の2時から3時頃のことでございます。直接電話をしまして、市長等々が避難勧告を発令し、消防団員が1軒ずつ戸をたたいて、夜中の2時3時に避難を手伝うなど、人的被害の防止に結びつけた市もありました。刻々と変化する気象状況、災害発生の可能性、危機が迫っている市町村、それらを市町村長に伝えることが非常に重要なことだと

、大切なことだと改めて実感をいたしました。広域で情報を持っている県に対し、小さなエリアでの市町村長では、判断に迷うところがありますので、県の役割が重要だということを改めて認識をいたしました。

発生してしまった被害の迅速な復旧につきましては、早期に、かつ的確に被災現場の状況を把握することが重要でありますので、職員の派遣はもちろんですけれども、私も被災現場に赴きました。状況を確認し、被災者から直接声を聞き、復旧対応に生かしたところでございます。

現場では、土砂災害で倒壊した家屋、障害者の施設、濁流にのみ込まれた農地など、被害状況をつぶさに調査をしたところでございます。国を始め関係機関の支援、協力もありまして、県民生活はもちろん、各種インフラの早期復旧が図られました。画面は日光市内の県道、災害時と復旧後の状況でございます。次の画面は、河川の復旧も終わったところですが、このようにして全ての工事が、復旧が完了しました。

洪水から逃げ遅れによる人的被害のゼロを目指しまして、県と市町村で協議会を設置しながら、今後5カ年で実施すべき取り組みも進めております。その取り組みの一つといたしまして、市町村が河川ごとに定める水害対応タイムラインの策定支援を行っております。この水害対応タイムラインとは、災害時に発生する状況をあらかじめ想定しまして、いつ、誰が、何をするかに着目して、防災行動と、それを実施する主体を時系列で整理するものでございます。

次に、災害時に適切な初動対応を図るためには、訓練が必要でございます。日ごろからの訓練、消防、自衛隊、警察、医療機関などと連携をし、あるいは図上の訓練も含めまして、意識して取り組んでおります。

また、被災者に対する食糧、生活必需品などの物的支援については、県の取り組みだけでは限界がありますので、民間企業からの支援が受けられるよう、県と民間企業で災害時の応援協定を締結しておりまして、この応援協定は130の団体、企業にまで増えております。画面の左下のところに、東日本大震災前は67件でしたが、あの大地震以降、倍ぐらいの数の協定を結ぶことができまして、県民を挙げて意識が高まっているという状況でございます。

災害はいつどこで発生するかわかりません。過去の教訓を踏まえた日ごろからの備えが何よりも重要でございます。国内の各県と連携、協力しながら、災害に備え、県民の安全・安心をしっかりと守ってまいります。

ありがとうございました。終わります。（拍手）

## ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

ありがとうございました。

幾つかポイントがあったと思います。一つは、栃木県で条例をつくられて、自助、互助、共助、公助の組み合わせで住民の皆さんを守るということをされました。実は、京都府も一緒でありまして、同じようなまちづくりの安心条例をつくりました。

この背景といたしましては、先ほどお話がありましたように、線状降水帯とい

う言葉がものすごく、我々にとりましては恐怖の言葉になっておりまして、50年に1度の規模を超える雨という話があるんですけども、実際上は、今まで経験したことの無いような、かつて記録したことの無いような雨がこの線状降水帯により生じるということが各地で起こっております。

こうなるとまいりますと、ハードだけでは十分な対応は、とても無理であります。そのために、まず住民の皆様が災害の情報を知って、とにかく助け合いながら命を守る行動をしてもらわなければいけません。そして、いわゆる河川整備とか治山治水といったようなものだけではなくて、町自身、地域自身が、例えば貯留槽ですとか、山林をしっかりと維持していくとか、保水力を高めるような総合治水をしていかないと、もうこの状況に対応できない、こうしたことが今、生まれてきています。

それに対して、栃木県が条例をつくり、全体の体制を整備していかれているのではないかと考えておりまして、大変厳しい中で、果敢な行動をされていることを改めて実感したところであります。

この災害に関しましては、本当に日本側は、ずっと災害を受け続けておりますけども、今度は地震について中心に、これまた地震の多い鳥取県の平井知事さんから、災害対策について、続けて発言をすることをお許しいただきたいと思っております。

## ○平井伸治鳥取県知事

尊敬する金寛容知事様、そして尊敬する徐秉洙市長様、金起炫市長様、尊敬する韓陞浩副知事様、そして御参席の皆様、こんにちは。私は鳥取県知事の平井伸治でございます。

こうして私たちは釜山に集いました。同じ地方行政、防災や人口減少の課題を抱える中、情報を共有し、行動をとるようになっていく、国境を越えた取り組みが始まります。そういう意味で、今日の会議に期待を申し上げたいと思っております。

また、徐秉洙市長様におかれましては、会議に先立ちまして、美しい釜山港をご案内いただきましてありがとうございます。日本で一番美しい（韓国の）港町、韓国語は、「トラワヨ プサンハンゲ（歌）」でございます。この歌が有名でございます。（拍手）そういうわけで、今日私たちは釜山港へ帰ってまいりました。

画面のほうにございますのが、江原道の崔文洵知事様と私とで、これから控えています江原道の平昌オリンピックを応援しようとみんなで集まったところでございます。2月には開催されるわけでございまして、さらにその後、東京オリンピックも控える中、東アジアが世界の中心になります。このときに数々の観光客がこちらに来られるでしょうし、世界中の関心が東アジアに集まる好機であります。ぜひこの日韓の知事会議で、私たちが声を上げていけることができたいと思っております。

あわせまして、今日アメリカのほうでは、トランプ大統領の訪韓、訪日に向けたいろんな報道が始まっています。今、日韓両国とアメリカが共同して軍事演習

することを発表したり、さらに北朝鮮をテロ支援国家として考える、そういう報道もアメリカ側から出始めています。北朝鮮と向き合わなければならない韓国、日本はともに、運命共同体として、今日のこの知事会議で志をともにしていくことができると考えております。

そのような中、地震など防災の課題があるわけでございます。これは鳥取県と韓国との交流の状況でございますが、鳥取県は日本の都道府県の中で最も多くの市町村が韓国の市郡と姉妹都市提携を締結している地域です。それから、韓国から研修で来ていただいている公務員の方、私たちが派遣している職員、そのような職員の相互派遣、さらに韓国から国際交流を企画してくださっている国際交流員が、実は鳥取県は日本で一番多いです。このように、日本の中でも最も濃厚に韓国との交流をしています。

今日、私の通訳をしている国際交流員の愼慧蘭さんも、これは権泳臻市長様の大邱の出身でございますが、皆さまもぜひ良きパートナーを探していただければと思います。

ともかく、そのような交流をしているわけでございまして、先般の日韓交流おまつり、これは李洛淵国務総理も、私たちと江原道が共同で出展したブースを訪ねていただきました。

さまざまな交流のチャンネルを持ってしまして、エアソウルは12月から週5便に増便することになりました。ソウルの仁川国際空港と米子鬼太郎空港を結んでおります。また、鳥取砂丘コナン空港と全羅南道の務安国際空港は、3カ月の計画であります。コリアエクスプレスにより週3便で結ばれているところでございます。

さらに、DBSクルーズフェリーという貨客船が境港から江原道の東海、さらにロシアのウラジオストクを結んでいるところでございます。先ほど徐秉洙市長様とお話を申し上げましたが、今、数多くのクルーズ船が私たちの間を行き交うようになっています。実はこのような形で、日韓両国がクルーズ船を増やすなどの努力をしていくことは、まさに協働していかなければならない課題であると思われれます。ぜひそうした意味でも協力できればと思います。

韓国でも、金寛容会長様の慶尚北道慶州でも大きな揺れがありました。また、蔚山でも9月に地震がございました。お見舞いを申し上げたいと思います。このような地震が続いているわけでありまして、「韓国でも地震が起こるんだな」と私たちも驚いているところです。

実は、鳥取県でも最近地震がございました。ちょうど1年前、昨年10月21日の午後2時7分、大きな揺れが鳥取県の中部を襲いました。この地図にございますように、茨城から長崎に至るまで、幅広い範囲で揺れを感じる地震となりました。1万5,000戸を超える家屋被害がございました。ただ、私たちがプライドを持っているのは、一人も亡くなった方がいらっしゃらなかったことあります。これは住民同士がお互いに助け合ったからであります。

韓国も地方都市は特にそうだと思います。お互いに住民同士が知り合っていて、どの部屋に、どこのおばあさんが寝ているということもわかっています。です



から、助け合うチャンスは実は地方のほうにあるのかもしれませんが。きずなを生かすことで新しい防災の姿をつくり出せるのではないかと考えています。

これが鳥取県の今回の被害の様子です。家屋でありますとか、学校給食センターでありますとか、また梨の被害もございました。また岩盤が崩れまして、名勝に行けなくなったり、観光の被害も広がりました。

鳥取県では、10月21日の午後2時7分に地震がありましたが、3時から既に被害の状況を集計し始めましたし、2時半に、空中からヘリを飛ばしまして、県内の壊れた家、あるいは被災箇所を空からまず確認することから始めました。そして、その最中にさまざまな物資の手配をいたしました。ここにいらっしゃる山田会長様、また伊原木知事様初め、全国の知事とも連絡をとり始めまして、屋根を覆うブルーシートでありますとか、ヘリコプターの手配でありますとか、本当に各地から協力をいただきました。今、日本ではこういう地域間での防災協力が広がってきていると思います。これは大きな力になりました。

ボランティアセンターは、災害の翌日、この日が土曜日だったものですから、ぜひ早目に立ち上げようと、通常の災害よりもかなり早く立ち上げて、動き始めました。また、地域での炊き出しなどの活動もすぐに活発化したところでありませ

す。特に地震では、住宅の被害が多く広がりますので、罹災証明を発行する職員が行政サイドで必要になります。この罹災証明という証明書がなければ、復旧のための支援が得られません。そこで京都など、近隣の自治体からも職員を派遣してもらいまして、私たちも手配を早め、発災3日目からその罹災証明書の受け付けを開始しました。これ実は日本の災害としては非常に早く進んだと思います。

そして、住宅修繕の支援制度を独自につくりました。大規模半壊以上が全国の制度であります。半壊、さらには一部損壊、全て被災世帯に給付金を配賦することを震災から5日目には決めております。

農業の復興でございますが、梨の収穫時期だったものですから、梨が落ちてまして、多大な被害がありました。そういうとき、伊原木知事のほうから、岡山で学校の給食に使ってくれるという話があり、農家が大変喜びました。もちろん損害に対する補填にはなりますけど、それ以上に、応援してくれる人がいることが、被災された住民の心の支えになります。

また、広域的な連携で物資を運んでいただいたり、専門職員を派遣していただいたり、多くのご支援をいただきました。日本の各自治体にも感謝申し上げたいと思います。

観光の風評被害というのが起こります。地震が起こると観光客がぱたっと来なくなります。そこで私は、発災1週間後から、この観光被害対策を始めまして、キャンペーンを行いました。約5万人の来訪客をつくり出すことができました。

中小企業者につきましては、なかなか日本では支援の制度がございません。県独自に100万円ほどそれぞれ支給できる被災支援を行いました。それを前向きに、どうせ壊れた工場を直すのであれば、次を目指すようなこともあってもいいんじゃないだろうか。例えば、ワインの醸造所、ここでは5万本のワインが割

れまして、大きな被害がありました。我々は風評被害が起きることも心配したのですが、むしろ壊れたことで「壊れなかったワイン」を売ろうと。例えば、夫婦ですね。「ご夫婦の愛をさらに深めるためにワインはいかがですか?」、「このワインは割れなかったワインです」と。ですから、夫婦仲は割れないと。それで随分高値で売りさばきました。こんなことなどやって、個人客の開拓が実は進み始めました。

それから、地域でどこに高齢者や障がい者がいるかなどの「支え愛マップ」というものをつくりました。これがつくられていた地域は有効に機能しました。ですから、これを全県に広げようとしています。

防災へのこのような心構え「地域で支え合うこと」は、先ほど自助、公助、共助などの話がありましたが、特に地方では有効に機能します。これを防災危機管理条例の改正で盛り込み、これを今、全県で確かなものにしようとしています。地域の防災力を向上させるために、防災リーダーの養成にもさらに本格的に取り組み始めました。

また、個人情報保護が大変難しいのですが、市町村と協力をして、個人情報も含めて地域に提供できる、それによっていざというときに人を助け出せる、そんな体制づくりを急いでいます。

江原道からも義援金や応援のメッセージをいただきました。国境を越えて皆様から大変なご支援をいただきました。私たちは、今、そのお返しとして感謝の気持ちを届けたい、そのような思いで10月29日には、鳥取県で平昌オリンピックを応援するセレモニーを開催させていただきました。

「困難なとき助ける友人が本当の友人だ」。困ったとき助けてくれる友人が本当の友人です。カムサドゥリムニダ。(拍手)

## ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

平井知事さん、ありがとうございました。

鳥取県が本当に素早く対応していただくと同時に、今、お話がありましたように、共助、助け合いの輪が大きく広がっていくというのは、実は最近の日本の特徴でもあります。

私たち全国知事会の大きな役割というのは、単に都道府県のいろいろな課題を持ち合って、それを検討して解決するだけではなくて、例えば地震があったときには、すぐに全国知事会の職員が現場に行って、応援体制がどれだけ必要なのを見きわめて、各都道府県職員を動員をしていくという役割を持っております。そしてそのときには、例えば九州で大きな災害があったときには、近畿や関東のそうした都道府県が駆けつける、また、逆に東北であった場合には、西のほうの都道府県が駆けつける、この体制を整備したのが、やはりきっかけは東日本の大震災でありました。こうした一つの府県では十分に対応できないものに対して、まさに都道府県同士も共助を行っているというのが今の例でもおわかりいただけたんではないかと思えます。

京都府や鳥取県も含む8つの府県で、関西広域連合をつくっているのですけれ

ども、鳥取県で地震があった後、その連合で一番最初に行ったことは、鳥取県の観光をみんなでPRしようじゃないか、みんなで鳥取県に旅行客を送り込もうじゃないかということでした。

それでは、韓国側の事例について、金寛容会長さん、進行、よろしくお願い申し上げます。

### ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

ありがとうございました。

続きまして、慶尚南道の発表を頂戴いたします。

鳥取県知事、栃木県の知事の発表を聞いて、非常に感動いたしました。そして政策の方向もそうですけれども、実質的な現場に答えがあるという確信を持つことができました。そして知事は、今、私たちの地域で広がっていますけれども、いろんな準備や経験、まだ足りないんですけれども、今回のお二方の知事様の発表、非常に有益で、国の政策決定においても、非常に役立つものだと思っております。本当にありがとうございました。

ホットラインの運営、栃木県のホットライン、そして鳥取県の協治、協力、自治体同士の協力、こういう部分は非常に、私たちにとって学ぶべきところがたくさんあるし、特にオリンピックに対して関心をお持ちいただいたことにつきましても感謝申し上げます。改めまして、お二方の知事に感謝申し上げます。

続きまして、韓経浩知事権限代行の発表を頂戴いたします。慶尚南道の発表になります。

### ○韓経浩慶尚南道知事権限代行（行政副知事）

まず、韓国をご訪問くださいました日本の山田啓二京都府知事を初めとする知事の皆様、ようこそいらっしゃいました。

慶尚南道ですけれども、台風被害の多い日本と最も隣接している地域ですので、慶尚南道は、災害対策と関連して発表する機会を頂きましてありがとうございます。

まず、慶尚南道についてですけれども、釜山と隣接している地域でありまして、人口は345万人、そして基礎自治体18自治体があります。そして308の邑・面・洞から成っています。

慶尚南道は、山口県と1980年に姉妹提携を結んでおりまして、岡山県とは2009年、友好協定が締結されています。伊原木隆太知事もお越しいただきましたけれども、今後も持続的な協力が拡大することを期待しております。それで近いうちに慶尚南道にもお越しいただきたいとお願い申し上げます。

慶尚南道ですけれども、韓国の産業発展を牽引した町でありまして、機械、造船産業、そして航空産業の中心地だと言えます。そして世界文化遺産である八萬大蔵経、そして伽耶の文化遺産、そして漢方薬の中心地である東医宝鑑村、そして美しい海岸線、そして南海岸の海上国立公園が非常に有名な町です。皆さん、時間がありましたら、ぜひともこの慶尚南道にもお越しいただきたいと思っております。

。続きまして、本地域の地理的環境ですけれども、慶尚南道は、台風の主な進行経路に位置しています。ですので、直接影響を受ける地域でありまして、台風が最も深刻な災害だと言えます。そして山岳地形ですので、集中豪雨が頻繁に発生している特徴があります。

これまで10年間の被害現状ですけれども、年平均3,469億ウォンの被害が発生しています。2012年には、特にボラヴェンという台風によって1兆ウォンに近い莫大な被害が発生したことがあります。ですので、台風と豪雨が全体の被害の90%を占めておりますので、慶尚南道は、洪水に対する対策を最優先に置いていると言えます。

続きまして、災害に対する対応体系ですけれども、中央安全対策本部を中心に、地方自治体が現場で実質的な災害に対応しております。そういった広域自治体である市道が中央政府と、市道が基礎自治体と国との間のかけ橋の役割をしております。

慶尚南道の自然災害に対する対応ですけれども、事後復旧から事前対応にその軸を移しています。そして現場ですぐ対応が行われるようにしております。そして新しい災害にも対策を立てています。

時間の都合上、重要なポイントだけ申し上げたいと思います。まず、自主防災団の運営です。4,800人のボランティアの方が我が町を自分で守るという覚悟を持って、身の回りの危険要素を点検して、復旧まで参加をしています。7月には、水害があった春川地域に出動するなど、いろいろ努力をしています。環境がそろえば、近くの国にも復旧支援に行きたいと思っています。これが自主防災団に関する内容でした。

そして、安全直訴制度というのがあります。国民誰もが事故や災害現場をスマートフォンのアプリを使いまして、迅速に行政機関に申告できるようにしている制度です。慶尚南道では、7,000件余りが申告されています。画面ごらんとおりに、7月に山清郡で発生した山崩れに対して申告がありまして、それに対して早急に復旧に当たることができました。予防レベルで、このような安全直訴制度を今後も活発に生かしていきたいと思っております。

そして、放送を使った災害情報の発信です。災害情報を発信する上で、放送会社の役割は非常に重要だと言えます。慶尚南道は、毎週火曜日、ラジオ放送を通じまして、災害予防対策要領について、マニュアルに対して周期的に、住民に積極的に広報しております。中でも慶尚南道と6つの民間放送会社が無償で災難に関する字幕放送を実施しております。これは全国で初めて協約を結んだことになります。

続きまして、災害被害者に対する心理相談、非常に大事だと思います。精神的被害を受けた被害者を対象に、専門的な心理相談を行うことで、日常に早期に復帰できるように支援しております。心理相談者、専門家が確保されておまして、233名の被災者が心理相談を受けることができました。

続きまして、環境変化に対して、新しく発生している災害について申し上げま

す。

韓国は、地震は余り発生してないんですけども、昨年、慶州で震度5.8の地震が発生しまして、今後もより大きい地震が発生することがあるという考えを持って、今、備える必要があると思います。

慶尚南道の場合は、ほかの市道も同じだと思いますけれども、施設物の耐震設計を補強して、そういう建物に対しては地方税を減免しております。そして教育訓練などを行っております。

最後になりますけれども、猛暑に対する対策も自治体が行うべき役割だと思います。33度を超える猛暑日が、80年代は8.2日から、最近は13.5日までふえています。ですので、猛暑が今後もたくさん発生することは予想されています。ですので、今年の夏からクーリング事業というものを、自治体の中で行ってございまして、日よけのテントなどを設置しております。そして猛暑のときに、高齢者や患者が休めるようなシェルターも運営をしております。

これまで幾つか事例中心に申し上げましたけれども、災害におきましては、日本の自治体の蓄積された経験、防災システムが私は素晴らしいと思っております。そういう意味で、一つの政策提案をしたいと思っております。

日韓市道知事の共通懸案が、今日議論している災害対策だと思いますけれども、ですので、市道知事協議会、そして日本の全国知事会を中心になって、日韓の災害協議会を設立して、運営したらどうかと思います。市道知事協議会の事務総長、そして日本の全国知事会の事務総長が中心になりまして、特に台風被害が多い市道の局長レベルで協議体を構成しまして、台風、地震を中心に両国の自治体の共同研究、対応について研究することがどうかと。それについて議論していただきたいという提案をします。

ありがとうございました。（拍手）

#### ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

一つ一つ災害対策についてご説明いただきましてまことにありがとうございます。

そして心理相談の運営、心理的支援、そして猛暑に対する対処、33度以上の場合はクーリング事業を行うといった新規事業、非常に意味あると思います。そしてご提案も非常によかったと思います。

共通の懸案について、特に災害について日韓協議体をつくって、両国の知事会を中心にしてはどうかと、部分的には台風、地震に集中して、お互いに共同研究をするのはどうかというご提案がありましたけれども、これは後の自由討論の時間をかりてお話ししたいと思っております。

そして、李春熙世宗特別市の市長が、今、お着きになりましたので、ご紹介いたします。（拍手）

#### ○李春熙世宗特別自治市長

日程がありまして、ちょっと遅れまして申しわけございません。遅れましたけ

れども、このようにお越しいただきました日韓知事の皆様、市長の皆様、本当にお会いできて光栄です。

後ほどまた個別にご挨拶いたします。ありがとうございました。（拍手）

### ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

続きまして、日本の事例になっています。

それでは、山田会長、お願いいたします。

### ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

それでは、私のほうからは、里見長崎県副知事にご発言をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

### ○里見晋長崎県副知事

本日は中村知事のかわりに私が参りました。

長崎県では雨がけさ降りましたが、釜山は今日は晴れております。

歌の世界では「長崎は今日も雨だった」で有名なんですけども、今日は長崎の雨による災害についての説明をさせていただきます。

最初のページですが、まず韓国と長崎、あるいは日本の関係をちょっと図示しております。今日来られている県も全部入っておりますが、長崎は東京から見れば西の端ですけども、東京から長崎まで1時間50分、でもソウルまでは、飛行機で1時間20分、対馬から釜山までは1時間強で行けるということで、距離は、実は釜山と対馬は49.5キロしか離れていなくて、日本の中で韓国と最も近い県と言えると思います。

そのような関係で長い交流の歴史がありまして、昨年、長崎県を来訪された韓国からのお客さんは、延べですが、28万6,000人となっております。また、釜山広域市と長崎県は友好交流関係にありまして、さまざまな交流事業を行っています。特に若者、対馬高校では、国際文化交流コースを設置して、韓国語を学んで、姉妹校の釜山情報観光高校というところと交流会、あるいはホームステイを行っております。さらに、つい先日ですが、江戸時代の朝鮮通信使に関する記録がユネスコのメモリー・オブ・ザ・ワールドに登録をされたところでございます。これを機会にいろいろな交流を進めていきたいと考えております。

次のページが、長崎県の紹介でございます。非常に海岸線が長く、離島も多いということで、海もあるし、砂浜もある。あるいは島原半島へ行きますと火山、雲仙という火山があり、温泉もございます。

また、昔から海外と盛んに交流が行われておりまして、ヨーロッパ、中国、韓国、いろいろなところからの影響を受けた独特の文化と歴史があると。そういう歴史を踏まえまして、現在キリスト教の関連遺産の世界文化遺産登録を目指しているという県でございます。

原稿準備したときには、これはまだ登録はされるということがわかっていない段階でしたので、ちょっと古い情報も入っているかもしれませんが、朝鮮通信使

、江戸時代の対馬藩、今では長崎県の一部になっていますが、対馬藩は朝鮮との外交の窓口でございました。500人規模の大使節団であった通信使は、首都から釜山を経て対馬に寄港し、それから壱岐、瀬戸内海、京都に向かいまして、江戸まで行き、最後、今日栃木県知事来られておりますが、日光まで陸路で向かったということで、さまざまな優秀な、韓国のほうからは優秀な儒学者、画家とかが来られ、画家とか医者が来られて、文化交流を深めてきたということで、このような交流の歴史を未来に向けてどう生かしていくかというのが課題だろうと思っております。

さて、本題でございますけれども、次のページですが、長崎は、非常に坂の多い町で、今日午前中、釜山の甘川文化村を見させていただきました。左は甘川文化村ではなくて、長崎の写真です。多分ぱっと見たら、色が変わってなければ、ほぼうり二つと思います、左が長崎の町、右が甘川文化村です。ということで、非常に坂の町があります。この坂にいろいろな歴史的な住宅もあるのですが、これがまた災害が起きる原因になっているということで、ちょっと最初に見ていただきました。

次のページです。気温と降水量の比較をソウル、釜山、長崎と並べてみました。時間がないので、細かいことは申し上げますが、大体一番雨が降る7月の平均降水量は、長崎では月314ミリ、ソウルでは373ミリ、釜山は324ミリということで、平均しますと長崎の降水量は、ソウル市や釜山市よりも少ない程度なんですけれども、今から35年ほど前の長崎豪雨災害では、月ではなくて1時間に雨量187ミリ、そして1日の降水量で400ミリを超える大雨となったということで、甚大な被害が出たということで、この1時間、187ミリという降雨量は、今でも日本の最高記録となっております。

そのときの天気図をちょっと描いておりますが、これは低気圧でございまして、韓国はそれほど台風、強力なやつは来ないと思いますけれども、低気圧は多分いっぱい通ると思います。この低気圧が、この1982年7月23日の夜に猛烈な雨を、特に3時間に集中して降らせまして、3時間に313ミリということで、ほぼ平年の1カ月分を降らせたということで、長崎市内を中心に、土石流や崖崩れが発生しまして、県内で299名の死者、行方不明者となったということになっております。

そのときの状況、これからご説明しますが、まずは地図が、長崎の中心部でございまして、上から川が流れ込んできて、これが長崎港でありまして、その周囲にへばりつくように家が、住宅地が形成されております。恐らくここは釜山とちょっと違うと思うのですが、その中心部に中島川という小さな、日ごろ見るとすごい小さな川なんですけれども、これが中心部に流れておりまして、商店街、市役所、県庁などがそのすぐ近くにあります。そして山沿いの住宅地では、当時は崖崩れ、土石流が発生しまして、中島川の流域が冠水、あふれたということでございます。

そのときの様子を写真で見させていただきますと、有名な眼鏡橋というのが川にかかっているんです、日ごろは、こういうふうに水の量が、左みたいに少ないんで

すが、一気にあふれた関係で、右上のように、橋がもう、石も流されたということで、有名な橋なんですけれども、一部崩壊してしまったというのが河川の状況です。

それから、次のページが道路の状況ですが、左が被災前、右が被災直後でございますが、あの狭い川が氾濫しただけで、大型のバスが流されて、道路下の、いわゆるのり面というところが崩壊した様子が見てとれるということで、流された車両が約2万台という記録になっておりまして、多くの方も犠牲になってしまいました。

次のページが土砂災害、いわゆる住宅地の山崩れの状況です。民家の裏山で土石流が発生しまして、多くの犠牲が出ました。それを右のように、斜面をコンクリートで保護しまして、今では住民の安全を確保しているという状況でございます。

じゃあ、何でそんな小さな川が氾濫をしたのかというのが、少しわかるようなのが次とその次の2枚になりますけど、1つ目が、ちょっと川の情報がなかったもので、漢江しか入れておりませんが、右側が外国の川です、真ん中が漢江で、左側が日本の川です。これは川の勾配というのを図示したやつなので、雨量だけが原因ではなくて、川の勾配という、傾斜というのが大変重要になってくるということで、日本の多くの河川では、世界に比べると一気に上流から河口まで流れるという特徴があるというのが、基本的に治水が難しい部分になっております。

次のページが、日本の川の中でも長崎というのはどうかということ、利根川とか信濃川とか木曾川とか、有名な大きな川が右のほうですが、その勾配と比べましても、本明川という、緑の線が長崎県の川で、中島川が、その大水害のときに氾濫した川ですが、非常に傾斜が急で、一気に増水しやすいというのが目で見てもわかっていただけるかと思えます。

そういう状況の中で、もう一つ要因があるのが、そういうふうに傾斜が急だということなんですけど、実は中島川、長崎市内を流れていまして、実は大規模な水害、190年間なかったんで、皆さん、改修しなくてもいいんじゃないかと思っていただんですけども、実は都市化の進展ということで、周りの住宅地とか田んぼとか畑とか林で水が吸収できなくて、雨が一気に下流に行くという割合が、実は都市化とともに高まっていたというのが、結果から見ると非常に重要な要素だったということでございます。

そういう被害がずっと起きたんですが、じゃあ、その中島川をどう改修したかというのが次のページでございまして、バイパスをつくったということで、川幅はそんなに広げてないんですけども、川は上流から見て右左になりますが、右岸のほう、右のほうにバイパスをつくったということで、観光スポットの眼鏡橋も翌年には復元されておりますが、今ではハードストーンみたいなものがあって、愛を願うパワースポットということで、安全・安心の上に立った観光スポットになっているということです。

ただ、ここで、実は長崎でこれをつくるのに30年間かかっております。これはある意味、反面教師かなと思っております、本当はこんなに時間かけてはい



けないんだと思いますので、なかなかいろんな技術的な要素、修復費用、いろんなことがあります、これはひとつ反面教師かなと思っております。

あわせまして、川だけではなくて、ダムを建設いたしまして、長崎の大水害と同程度っていうのは、多分200年に一遍ぐらいしか起きないのですが、それにあわせました洪水対策ということで、上流のダムに洪水の調節機能というのを付加しております、現在川の改修とダムのセットによって、周辺地域では大きな水害は発生しておりません。

それから、次が砂防ダムということで、これは、流れてくる土砂を食いとめるダムを砂防ダムといいます、その砂防ダムによる土砂災害対策ということで、ちょっと見にくいかもかもしれませんが、赤い矢印のところ、土石流が発生しまして、大変な土砂が出て、人的被害も出たという状況です。

これが今どうなっているというのが次の写真でございます、砂防ダムをつくりまして、これ4、5年で作ったわけですが、地すべり対策をやったおかげで、住居も安心して住める状況になっております。

それで、ここまでが長崎水害ですが、じゃあ、今、長崎では何をやっているかというと、これは国の全体の制度と全く同じなんですけども、土砂災害警戒区域と防災訓練というもので、あらかじめ危険だという区域を認識できるように、県のホームページに区域を掲載しております、その地域で住民の避難訓練を行ったり、土石流の発生の仕組みを学習してもらっております。

また、先ほど慶尚南道のご発表にもありましたように、いわゆる電子情報とか、マスコミ情報も大事でございますが、河川の水位、雨量情報を提供するという、長崎県でシステムをつくって、ホームページで閲覧したり、報道機関に提供しまして、テレビのデータ放送でも、自分で操作して気象情報、防災情報が確認できると、こういうシステムを提供して、住民の皆さんに知らしめております。

それから、先ほどあった土砂災害です。これについては、メッシュ状の危険度情報というのを5キロメートル、メッシュで提供しております、色が濃い紫になるほど危険度が上がってくるということで、これも气象台と一緒に土砂災害警戒情報を発表して、土砂災害の防止に努めているということで、これも住民に提供しております。

一番難しいのが、長崎の場合、そんなにしょっちゅう災害が起きないということで、むしろ大事なのは、災害教訓の継承で、日本の有名な随筆家であり、科学者である寺田寅彦さんは、天災は忘れたころにやってくるという有名な警句を発表されております。

長崎では、一番の繁華街といわれる思案橋の近くに、浸水の高さを示す碑をつくっていたり、清掃活動を通して、被害の状況を学習する。あるいは、これは実は長崎水害以前の江戸時代の古い話なんですけれども、土砂災害が発生し、33名の犠牲者が出た地区では、それが14日に起きているものですから、毎月14日にまんじゅうを持ち回りで全戸に配って、念仏講まんじゅうというのを行われて、そのときに、その地区では、砂防の堤の水通しから水が出てきたら逃げると

という言い伝えも一緒に伝わっているということで、1982年の長崎水害のときにも、この地区は一人も犠牲者を出さなかったということでございます。

最後でございます。そういうふうに住民にはいろんな提供をしておりますが、県の職員がどういうことをやるかということ、もちろん、先ほどのご発表にありましたように、トップがやっていただくということ、もちろん大事なんですけど、職員自らが、みんな日ごろの備え、防災意識の向上をやるということで、居安思危（こあんしき）」、これ中国の古典でいう「春秋左氏伝」から言葉をとっております、平穩無事のときも危機に備え、用心を怠らないという言葉を書いたハンドブックをやっておりまして、実際、私、今この手元に持ってきているんですけど、これぐらいの大きさで、目立つ色にしていまして、これを長崎県の職員はみんな持っているということで、準備を怠らなければ、いざというときに慌てずに済むということでやっております。

以上で長崎県からの説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

#### ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

里見副知事、ありがとうございました。

長崎の大水害、実は私、長崎県のすぐそばの島の税務署長に赴任したのが、この1982年の7月22日でありまして、まさにこの大水害の雨を経験をいたしましたけども、家の中にいるだけでも怖くなるような、とんでもない雨でした。そこから30年間かけて、しっかりとした河川整備をされたということ、ただそれだけやっぱり時間がかかりますので、情報提供をしっかりと行い、また県民ぐるみの、皆さんで安心・安全の体制を整えているということでございます。

かなり時間が押していますけれども、それでは、金寛容会長さん、進行、よろしく願いを申し上げます。

#### ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

それでは、ただいまよりは事例発表された内容につきまして、簡単に自由討論を行いたいと思います。

発言される方は挙手をお願いします。日本、韓国どちらの発表についても、ご意見結構でございますので、よろしくお願いします。

蔚山広域市長、お願いします。

#### ○金起炫蔚山広域市長

蔚山広域市長、金起炫と申します。4名の知事の発表、副知事の発表ありがとうございました。

蔚山は、昨年10月、夏から秋まで、10月にわたって1度も経験したことのなかった災害を2回も一気に経験しました。1回は、チャバという台風によって、時間当たり降雨量が、130ミリが降りました。蔚山の残っている記録では最も多い豪雨が降ったということになりました。それによりまして、多くの水害が

発生をしました。

そして、その前ですけれども、これまでの記録上、最も強力な震度5.8の地震が発生して、経験しました。一度もこのような地震を経験したことはなかったので、多くの混乱をもたらしました。こういうことを経験しまして、日本が持っている豪雨や地震に対する安全システムが非常に先進化していることを感じることができました。

災害や豪雨、地震といった災害、災難に対しての対応システム、先ほど長崎県の副知事が居安思危とお話しされましたけれども、私、そうすることができず、非常に困っておりますので、今、日本に人を送って、事例を研究しています。私たちが感じたのは、日本が非常にシステムがよくそろっていると、全世界の中でも一番できているシステムではないかと思いました。

お二人の知事にお聞きしたいと思います。

栃木県知事に質問です。資料18ページのところですけれども、知事がホットラインを通じて、市町村の村長に対して電話で、こういう危険性を知らせたという内容が入っています。

今回、私たちが災害を経験して、経験したところによりますと、こうした危機状況が発生したときは、住民に警報を発することが非常に、これまで不十分だったということを感じることができました。外に出かけている人は、そういう災害が発生していることがわかる方法がありません。そして、市町村の建物は、市町村はそういう災害が発生する地域を中心に、スピーカーを設置して、それを通じて災害を知らせることができましたけれども、豪雨のときは風も強くて雨の音で、スピーカーを通じての案内放送が余り効果なかったということを感じることができました。ですので、近年、最近はこういうシステムをさらに先進化しまして、電話、スマートフォンの文字放送、そしてSNSなどを通じて知らせることを、今、補足していますけれども、それでも依然として外に出かけている方に対して知らせることは難しく、そして、マンションの場合は韓国人はマンションに大分居住しているんですけれども、そのマンションの中でまた放送をすることが非常に難しいということがわかりました。

栃木県知事にお聞きしたいのは、住民にこうした警報をどのようにして有効に知らせることができるか、栃木県ではどのようなやり方、システムで住民にそういう警報を早く伝達しているかをお聞きしたいと思います。

そして、鳥取県知事に質問があります。鳥取県知事は、東京でお会いしたとき、非常に活発な方で韓国語も上手で非常に感動しましたけれども、今回も相変わらず元気でいらっしゃることがわかりました。そして、親近感を感じます。先ほど地震被害と関連しまして、企業に対する被害、国の予算、中央政府の予算で補償ができない、支援がないというお話をされましたけれども、最近、住宅は全壊、そして半壊、一部破損に対して支援はしているものの、一部破損に対しては30万円、韓国のウォンで300万ウォンぐらいですけれども、それ程度まで支援しているとお話をされました。韓国の場合も災害、災難による被害、住宅の被害、企業の被害、そして、零細商工に対する被害に対する補償は少ない、またはな

い場合もある、100万ウォン、600万ウォンぐらいに制限されておりますので、それによって、多くの不満がもたらされています。補償の範囲を拡大してほしいという要請が今出されていますし、今もこの問題で多くの苦情が入っている状況です。日本の場合はこのような苦情はないかお聞きしたいと思いますし、また、そういう苦情によって、中央政府はどのような方法で解決しているかについてお聞きしたいと思います。お話は私たちに役立つと思います。

以上、質問、皆様の知恵をお願いいたします。

### ○福田富一栃木県知事

それでは、栃木県知事でございます。

住民への災害が発生しそうな情報をいかに適切に伝えるかというのが、犠牲者をなくす手段になります。では、今までお話がありましたように、あるいは韓国の各市道もお取り組みになっていますように、通信会社と組んでエリアメール、大雨が降りますので避難も含めて準備をするとか、そういうエリアメールを地域限定で発信するという方法が1つあります。

それから、税金で防災ラジオを買って、これは災害が起きそうなときには自動的にスイッチが入って避難を呼びかけるという防災ラジオ、これも住民に全市町村ではありませんが、配布をしております。それから、地元の栃木県内のラジオ、それからテレビ、そこでも災害情報を流すと、そういう協定を結んでおりますので、文字放送も含めてテレビとラジオでお知らせをすると、こういう仕組みになっています。

しかし、テレビを持ってない人、テレビをつけない人、ラジオは持っているけれども、電池が切れてしまった人、あるいはスマートフォンを持ってない人、ここには情報は伝わりません。特に高齢者のところは伝わりません。そういう設備がない、そういうものをお持ちになっていないという方がいらっしゃるわけですので、最終的に2年前の豪雨で経験したことによりますと、地域の消防団がその川の沿川の水があふれそうなところを、1軒1軒、深夜、夜中の2時、3時、大雨が降っている、風が吹いている中で玄関をどんとたたいて、これから洪水が発生するかもしれません、ついては一緒に避難しますから、隣の小学校まで一緒に避難しますから準備をしてくださいと、こういうことを呼びかけて避難を促した、一緒に消防団が促したと。これはマンションであろうが一軒家の遠く離れたところであろうが、必ずその仕組みさえできれば、これは人海戦術になりますけれども、最後はそこだと思えます。それで人命を救うということにつながっていったというふうに栃木県としては捉えております。スピーカーはもう大雨と風では聞こえませんが、残念ながら。夜中は特に聞こえませんが。全部雨戸まで閉めてしまいますと聞こえませんが、そういうことを実際に消防団の一人一人の活動で避難を呼びかけるということが必要だというふうに思います。

それから、ホットラインというのは市町村の取り組みを早目に促すということで、上流で起こっていることを下流の市長、町長に伝えるということですね。上流で大雨が降っていますから、30分後、1時間後には恐らく水かさ1メートル

ルとか2メートルとか上がりますよという情報を伝えてやれば、受け取った市町長はそれに対してどう対応すべきかということがわかると。わからなければ聞いてもらえれば、避難勧告、避難指示、そして避難所の開設、こういうところまで取り組む、すぐに準備をしたほうがいいですよということをお伝えして、それに伴って市町村が準備をする、避難を呼びかけると、こういうことで消防団にもお願いしてやったということでございます。以上です。

### ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

それでは、鳥取県知事お願いいたします。

### ○平井伸治鳥取県知事

金起炫市長様。私どものほうでやっておりましたのは、そうした住宅やお店などが被災した場合の支援ですが、日本ではまだ発展途上だと思います。実は、もともと議論がございました。商工関係では、これは本来収益事業なので、お金をもうけるわけですから、そこに公金が入るのがいかなものかという議論があります。したがって、伝統的に日本ではそういう災害時には融資制度により支援をするのが通常でありますし、それが基本だと言ってよいです。

ただ、最近、熊本地震など大きな地震が発生をして、商工業者が共同して行うような事業などに対する支援が国の制度としても始まりました。ただ、鳥取県の場合は、その国の認定が得られません。したがって、被災地の商工の復興をどう進めるかが課題になりました。私も被災者が生活をしていた避難所に参りましたときに、79歳の女性の方が、私の手を握りまして離さないんですね。その女性はこうに言いました。「私はもう年をとっているので借金をしてまで、もう一度喫茶店を開くことができない。ですから、私のような者でももう一度チャンスを下さい」というお話でした。それで、鳥取県として決断をしまして、商工関係の中小企業に対する支援制度を独自につくったわけでありまして。その女性の喫茶店は9月に再開をし、カラオケも歌うことができる楽しい喫茶店ができ上がりました。このように、全額を出せないにしても、ある一定の支援があるということ、それから、融資を無利子化したのは鳥取県ですが、無利子融資で支援をするということで、やはり営業努力をする気持ちができるということですね。そのモチベーションを湧かせるにある程度十分だけは、行政の後押しというものも有効なのではないかなと思います。

地方都市の場合、地震などが襲いますと、それで一気に経済の活力が失われかねません。もう一度商店街がにぎやかな姿を見せるかどうかはわからないわけです。若い方々がどんどん出ていってしまっ、「もうこの際、商売をやめよう」ということにならないように、地域社会の責任、地域社会としてセーフティーネットを張ることの重要性を感じています。

また、住宅につきましては、国全体の制度が今ではできていまして、100万、150万といったある程度まとまったお金が出ます。ですから、韓国の先ほどの600万ウォンよりもかなり高い水準のお金が出ますけれども、ただ、それで

も住宅が建つほどのお金は出ません。現実には地震のときに機能しているのは地震保険の制度であります。今回の鳥取県の被害でも、民間の保険会社、農業協同組合による保険、これが有効に機能しておりまして、それはもう本県だけでも100億ウォンぐらいは軽く保険金が出ていると思います。ですから、そういう日ごろからの自助努力で保険料をある程度払って保険金をもらっているというのが、地震も含めて日本では機能している面があります。ただ、そういうこと以外に、やはり地域社会で住民がこの際、家を出てしまおうということになる、町を出るということにならないように、一定の歯どめをかける意味での公的助成は有効だと思います。

鳥取県では、実は市町村と県でファンドをつくりまして、そのファンドによりまして、国のほうの基準よりも手厚く、半壊でも支援を出せるようにしております。さらに、このたびの地震なんですけれども、鳥取県を襲った地震は非常に加速度が強くて、1,400キロガルの揺れだったんですね。これは熊本の地震や阪神大震災を上回る揺れでありました。ですから、広範囲に被害が広がったんですけれども、揺れる周期の関係で、倒壊の一步手前のところでとまった家が非常に多かったんですね。私は、発災日から毎日被災地に通いまして見ていたんですけども、このままだと国の助成制度が本県はほとんど適用がなくなってしまうと。ただ、被害が甚大なので地域社会の崩壊につながりかねない。ですから、思い切って一部損壊であっても30万円まで、さらに小さな被害でも5万円までの助成ができるように、市町村長と急遽協議をして、助成制度の適用を決めたわけです。全国で初めてのケースでございました。

これによって、被災した住民の皆さんが、この助成制度を受けられるというめどが1週間以内にわかったので、「じゃあ、もう一度建て直そう」、「直そう」ということになって、住民が外に転居してしまうことの防止効果はあったのではないかなと思います。ですから、全額補償することはできないにしても、そうした一定程度の助成はそれでも有効だということで、今回、被災地の皆さんから、大変、県庁に対する感謝の声が届きました。

あと大切なのは、先ほど言ったような民間保険、それから市町村と県で私どもで言えば積み立てをして、震災復興の住宅支援の基金を特別につくる、こうした地域の自助努力も必要なのではないかと思います。

### ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

ちょっと2つ補足をさせていただきますと、先ほどお話がありました国と地方で住宅の再建支援制度をつくっております。その制度の額は、基礎的な支援金が100万円、それプラス加算支援金が、半壊以上は状況に応じて、出るんですけれども、200万円ほど出ますので、全部でアップで300万円、つまり3,000万ウォンぐらいになります。そして、実はもう一つ特徴がありまして、この制度を運用しているのが全国知事会であります。正確に言いますと、全国知事会が作っている都道府県センターから、この支援金を出しております。東日本の大震災のときには多分3兆3,000億ウォンを、この全国知事会から被災者

に交付をしているということでございます。

### ○徐秉洙釜山広域市長

時間がどうでしょう。先ほど知事会で基金が造成されて支援金がありするというお話をされましたけれども、その基金の造成はどのようにされるのかお聞きしたいと思います。中央政府ですか、それとも、各市区府から毎年このようにお金を出して、出し合って作っているのか、その財源はどのように準備されていますか。

### ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

これは国が半分、都道府県が半分出します。ただ、東日本の大震災のときは余りにも額が多かったので、都道府県分の額につきましては国の交付税を上積みいたしまして、それによって都道府県分の積み立てを行いました。このときに、先ほど申しましたように3兆3,000億ウォンぐらい出ておりますので、なかなか1年で積み立てることはできなかったもので、このような臨時の措置をとっております。今、大体、この基金が4,000億ウォンぐらいまだ残っておりますけれども、熊本地震なども発生したものですから、大分減ってしまったのは事実であります。

### ○司会

時間が大分たっております。実は、今、休憩の時間でございます。非常に真摯な内容で、皆さん、非常に準備をしてくださいましたので、もう数日わたってこの会議をしたい気持ちですけれども、時間を効率的に活用するために、それではご発言は簡単にしたいと思います。

以上で、セッション1を終わりにして、20分休憩をとりたいと思います。4時10分からセッション2を始めたいと思います。

3つお知らせがあります。まず1つ目に、海が見えるテラスにコーヒーを用意しております。釜山の海を眺めながらコーヒーをお飲みになってください。2つ目は、ロビーに2018年、平昌冬季五輪のフォトゾーンがあります。オリンピックマスコットのスホラン、バンダビというマスコットがおりますので、一緒に写真を撮ってください。冬季五輪を盛り上げてください。写真撮影後は、これをすぐプリントアウトしてプレゼントできる、お渡しできるということです。そして、休憩の前に壇上にお上がりいただきまして、記念撮影を先に行いたいと思います。韓国、日本の代表の皆様は壇上までお願いいたします。マスコミ関係で、ちょっと写真撮影時間を早めておりますので、今、写真撮影を行いたいと思います。ご協力をお願いいたします。休憩の前に記念撮影を行いたいと思います。皆様は壇上の上までお願いいたします。

〔休 憩〕

## ○司会

それでは、セッション2を行いたいと思います。  
金寛容会長に座長をお願い申し上げます。

## ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

釜山の海はきれいだったでしょうか。  
それでは、日本の事例に入らせていただきます。そして、皆様ご存じのように、時間、大変押ししておりますということでございまして、発表や総合討論時間で調整しなければいけないと思うんですが、食事の場でも討論はできるので、皆様、まずはそういうことで、山田啓二会長、進行お願いいたします。

## ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

では、引き続きよろしく申し上げます。  
それでは、日本側から、伊原木岡山県知事にご発言お願いいたしますけれども、今、お話がありましたように、できるだけ簡潔に申し上げます。

## ○伊原木隆太岡山県知事

今日、このように皆様にお会いできて大変光栄でございます。岡山県知事、伊原木隆太と申します。早速入りたいと思います。

まず岡山県の紹介をさせていただきます。北は中国山地、南は平野、中部は丘陵地ということでございます。岡山県は、雨が降らない日が276日と日本で最も多く、晴れの国と呼ばれております。どれくらい晴れているかということでありまして、岡山が晴れるだけではなくて、知事、副知事が行く先も晴れるということでございます。本日、ここが晴れているのもそういうことかなと思っております。ちなみに、長崎県の里見副知事も同じお考えですので、どちらのせいなのかよくわかりませんが、ダブルで晴れているということでございます。

岡山県はもともと日本では農業県というイメージがございます。中四国地方一の農業県でありますけれども、実際の統計をとってみますと、農業のGDP、岡山県の1%でありまして、実際は工業で生活を成り立たせている県でございます。

岡山県、実は地味ながら観光名所が多々ございます。日本三名園、日本の3つの有名なお庭の一つ、後樂園、これが300年前に作られたお庭でございます。「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」でも、三つ星、つまりこのためだけに行ってもいいんだよということをお庭でございます。また、倉敷の美観地区、江戸時代もしくは明治の町並みが残っている場所でありまして、また、大原美術館、西洋の絵が日本の蔵の中に入っている、非常にユニークな美術館でございます。

あと岡山県、実は温泉がたくさんある場所でありまして、それぞれに特徴のある湯原、湯郷、奥津の3つの温泉があり、周りにはいっぱいゴルフ場がございます。韓国の皆様、ゴルフが大好きとお伺いいたしておりますので、ぜひゴルフと



温泉セットでお越しただいただければと思います。

岡山県と韓国とのご縁について、簡単に紹介させていただきます。今日、副知事がご出席の慶尚南道と2010年に友好交流協定を締結させていただいております。教育、文化、経済など幅広い分野で交流をさせていただいております。2016年には、慶尚南道から、青少年18名の皆様に岡山県にお越しいただきました。また、来週ですけれども、7日から3泊4日で岡山県内の中学生12名が、慶尚南道をお邪魔することになっております。どうぞよろしく願いいたします。このように頻繁に行き来をしているということでございます。

今日、何度も話題に出ました、この朝鮮通信使、岡山県もそのルートに入っております、それを我々誇りにいたしております。牛窓という港、400年前の江戸時代から、10数回にわたり、朝鮮通信使に寄港をさせていただいております。実は、この牛窓では、朝鮮通信使、すごかったよな、すばらしかったよなということで、毎年、朝鮮通信使の皆さんの格好をしてお祭りをしているということでございます。ユネスコの世界記憶遺産への登録、本当に喜んでいるところでございます。

では、早速会議のテーマということで、地域経済の活性化のための岡山県での取り組みということでございます。先ほど申し上げましたように、この岡山県、水島コンビナートを中心に鉄鋼、自動車、化学、石油精製、造船などで日本を代表する企業が立地しており、数多くの優良企業が経済活動を営んでおります。岡山県、こうした産業集積を生かして、地域を支える産業の振興を重点戦略の一つとして掲げ、企業の誘致、それから、既に立地している企業の投資促進に力を入れているところでございます。

誘致ということと言いますと、各県それぞれ頑張っているわけですけれども、岡山県も5年前、私が知事になりましたときに、100ヘクタール以上の土地が余っておりまして、これ、どうするんだということになっておりました。びっくりしたのが、我々自身知っていることを、潜在的顧客である企業の皆さんが知らないということであります。例えば北のほうの土地は雪が降ります。南のほうの沿岸、海岸沿いは津波というリスクがあります。それだけで、もう企業が、いや、ここはやめておこうということになっていたわけですけれども、ちゃんと説明すれば岡山の雪なんていったら、大体50センチぐらいしか積もりませんよというと、ああ、そのくらいだったら大したことないなという話になったり、もしくは確かに海に面していますけれども、岡山の場合は一番大きな地震の、一番悪いタイミングのときでも、4メートルの高さの津波は3時間後に来るので、十分対応できるんじゃないですかという話をすると、全然、反応が違ってきて、今の我々の切実な問題は新たな用地を作ることになっています。

これから成長が期待できる分野にも目を向けておまして、例えば超精密生産技術分野、それからバイオ関連分野などにおいて、いろいろな集積に取り組んだり、補助、プログラムを作ったりしております。私、この5年間、この仕事をやって、意外だなと思いましたが、ハイテクではないローテク、例えば食品製造業のような産業が、アクセスがよくて水が大量にあるとか、農産物がいっぱいあ

るという岡山の強みを生かして、地域の雇用に貢献してくれていることだと思います。

先ほど、売り込みが大事だと申し上げました。実は、私、6年前まで、地元のデパートの社長をいたしておりまして、いいものをつくれれば勝手に売れるわけではなくて、それなりに努力をしなければ売れないということを身をもって体験してきた人間でございます。岡山県、実は東京において、岡山県の産品をPRする場所がありませんでしたので、知事に当選して早速その場所を作ろうということで、今日お越しになられている鳥取県の平井知事と共同でアンテナショップを作らせていただきました。本当に大変うまくいっております、この場をお借りして感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

先ほどの話と同じで、我々は岡山の桃、岡山のブドウは世界一で、もう世界中の人が知ってくれていると思っておりますが、実は日本でも知らない人が多々いるということでありまして、このアンテナショップを非常に交通の便のいい、人通りの多いところに置きましたら、そこからヒット商品がたくさん出てきています。やはり我々が知っていることでも、どんどん外に向けてPRしていかなければいけないなということを感じているところでございます。また、置いているだけではなくて、平井知事と私、トップセールスも随分させていただいております。1年前には2人で漫才をさせていただきました。全国放送でも取り上げられて随分話題になったわけですが、結構受けたなとは思ったんですけども、ご指導いただいたプロの漫才師からは、漫才の世界に入るよりもこれまでどおり知事を続けたほうがいいんじゃないかとアドバイスをいただきまして、そのまま知事を続けております。何にしても、どんどんPRしていくということが大事だと思っております。

これは、韓国にも少し関係することですが、実は岡山県はヒノキの産地であります。ヒノキの出荷額が5年連続日本一ですが、これはほかの県の人知らないどころか、岡山県の人知らないことでもあります。すごくいいヒノキがとれるんですけども、韓国では高級な杉材、ヒノキ材の需要が高まっているということをお聞きしましたので、韓国に昨年8月に、岡山県産のヒノキのPRをするアンテナショップを、京畿道の城南市にオープンをさせていただいたところでございます。本当にありがたく思っております。

日本全体で外国人観光客、今、非常に増えて過去最高を更新している中、岡山県も2016年度、外国人旅行者宿泊者数22万人ということで、過去最高、対前年比で37%増ということになっています。この流れを、ぜひ加速させたいということで、台湾、中国、当然韓国、それから香港、それからタイなどで積極的なプロモーションをいたしております。そのときにもよく岡山県だけのプロモーション、1つの県だけのプロモーションをすることがありますが、わざわざタイやシンガポールに行って、岡山に来てくださってと言っても、シンガポールの人には岡山だけに来るということはありませんので、中国地方と一緒に、もしくはお隣の香川県も含めた瀬戸内で一緒にということをお願いしております。売る側からすれば当たり前のことなんですけれども、なかなかできてないこともあ

るものと思っております。

それから、韓国の皆様ということ言えば、岡山ソウル便、毎日運航をいたしております。思い立ったら、明日からでも岡山にお越しいただけますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

随分はしょって、次のスライドが最後のスライドということでございます。議事進行にも協力をする岡山県、これからもどうぞよろしくお願いをいたします。

(拍手)

#### ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

ご協力いただきありがとうございます。地域再生、都市再生のために、何か派手なことをやるのではなくて、自分の持っている資産を見詰め直して、それを県民で分かち合って、さらに発信をしていくことの大切さ、これは元デパートの社長さんらしい発想で、そこにもまた都道府県が共同、連携をしていくことによって、さらなる都市再生事業ができていくという事例を出していただきました。ありがとうございました。

それでは、韓国側の事例をご紹介いただきたいと思います。金寛容会長、よろしくお願いいたします。

#### ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

大変おもしろい、本当に今すぐお金が稼げるような事業に関するご紹介もあって楽しかったです。

それでは、続きまして、釜山広域市に参ります。徐秉洙市長、お願い申し上げます。

#### ○徐秉洙釜山広域市長

ありがとうございます。岡山県のほうでは、最後のこの写真は知事でいらっしゃいますか、申しわけございません。

#### ○伊原木隆太岡山県知事

これは私が命令したんじゃないかと、下から上がってきたのでありがたいかと、そのまま使わせていただきました。

#### ○徐秉洙釜山広域市長

格好いい写真で感銘をお受けしました。韓国と日本両国の知事の方々をお招きし、釜山市の都市再生について、このように事案を共有することができ大変うれしく思います。私、過去、国会議員のころから都市再生については大変興味がありまして、都市再生活活性化支援に関する特別法を発議したり制定もしたりしております。

釜山型都市再生、時間が残りございませんので、私も早く早く、ぱっぱと進めたいと思います。この釜山型都市再生ということで申し上げます。

ご覧のように、過去、韓国戦争の際、避難所として多くの避難民が集まったところ。現都心として、D地帯を中心に無計画的なそういう都市再生が進んだところ。60年代、70年代は産業化の基地として韓国経済を引っ張っておりますが、国の首都圏中心の開発方式によって、地域産業の危機はもちろのこと、産業団地の老朽化など問題が結構、これまでありました。ということで、市民の暮らしは急激に落ちました。そして、皆様も、このいらっしゃるところが東釜山ですが、西釜山のほうとの教育など、さまざまな二極化が生じてしまっていて、そのような問題点も徐々に深刻化しています。なので我々が都市再生といえ、従来にあった町を全て撤去をして、物理的中心な都市再生がメインでした。その結果、そちらにいらした住居民は、また違った場所に移住をしなければならないということで、また、従来のような生活をしなければいけないといった、過去の繰り返しのようパターンとなってしまうんですが、町のコミュニティーも破壊し、ジェントリフィケーションということで、その周辺部まで被害が広がってしまうというような過去経験がありました。なので、我々はそういう物理的な撤去から離れ、町、共同体を復元するということにポイントを置きまして、町再生に入りました。人類的というよりは町の特徴を反映した持続可能な都市再生事業になれるような方策を考えました。こちら、画面には韓国語しかございませんが、右側にまた日本語のバージョンがございますので、ご参考いただきたいと思います。手前に右側、私の前から基準で、韓国語バージョンしか見えなかったものなので、せっかちなコメントで申しわけございませんでした。

それでは、ただいまより釜山型都市再生革新戦略を見てみたいと思います。一緒に幸せになれるような釜山型の福祉をまず立てて、釜山の多福洞というところがございまして、そちらを中心に町単位の総合福祉を立てました。老朽化した住宅団地、画期的な住居団地をつくるために60万戸の単独住宅団地をつくりました。360万都市ですが、60万は戸建てに住んでいて、また残り60万、高級マンション団地に住んでいます。ということで、戸建て住宅が釜山の場合はまだ多いということで問題になっています。行政と福祉のみならず保健、保養、健康など、統合サービスを提供するため、町共同体拠点と言える複合型コミュニティーセンターを、まず作りました。そして、戸建て地域の修繕事業、無人宅配サービスなど担当する町のオフィスをまず建てて、戸建て住宅の住民の生活の利便性を向上させています。また、我々は2015年度からこれを本格的に進め、年末になりますと複合コミュニティーセンターが11ほど、町関連の事業所は30になります。また、政府の都市再生事業と連携をいたしまして、来年からこの事業は一層拍車がかかる予定です。これ、多福洞事業は短編的な福祉体制から逃れ、都市再生、文化、健康、教育など全ての分野を総合的に考えた住民に合わせたオーダーメイド型、町中心福祉サービスであるということを申し上げたいと思います。

そして、2番目に、我々はこの東部にやはり開発がされたということなんですが、昔、元都心というところがございます。こちらはスラム化していて、活性化されず高齢化、少子化という社会的な問題に一番多く接しているような地域でも

ございます。なので、こういう地域の都市再生、新たな転機を迎えています。過去40年間、これまで続いた、そういう開発に遅れた部分があったので、都市機能が衰退していて、中心市街地の老朽化も一緒に進んでいて我々が注目をしました。ですが、この周辺地域の再開発、鉄道も今、もともところら、存続していたので、鉄道施設の再配置、市民公園もしくは金融団地をつくるなど開発事業が本格化することで、都市機能もやはり回復するといった新たな局面を迎えています。このため、市民公園から北港という地点までつなぐマスタープラン、こちら、図で表記されておりますけれども、来年3月まで、このマスタープランを立てて、元都心圏の復活を今夢見ている状況でございます。

そして、3番目、こちら、西釜山県と元都心地域の産業団地が配置されておりますけれども、こちらが引き続きスラム化、またしているということで、競争力が若干落ちています。これを制度として、都市再生ということで新たな成長エンジンを創出しようと頑張っております。過去60年代、70年代、韓国はやはり経済を引っ張ってきた釜山でございますが、沙上工業団地ですとか、新平長林地区など、さまざまなそういう中心となった地区があります。その工業団地を先端地区として、スマートシティーに生まれ変わろうと今頑張っています。このビジネスセンターですとか、労働者のための幸せ住宅など、安価施設を集中的に建てて、競争力のある企業、良い雇用を生み出し、暮らしと文化が融合するスマートシティーを建てて、知識基盤型都心産業団地として、住宅団地としても使えるようなところを目指しています。

そして、地域資産を利用して、観光ブランド開発をしています。観光資源化を現在図っている状況でございます。本日、甘川文化村地域の価値、再復元地域はもちろんのこと、住民自立基盤をつなげた持続可能な都市再生モデルであり、釜山の代表的な観光ブランドとして、今、生まれ変わろうとしています。そして、今後も計画しています。

そして、ご存じのように、釜山は2015年から、朝鮮戦争避難所としての、文化遺産としての価値があるので、その世界的な価値を盛り込むために世界遺産としてユネスコ搭載目指しています。今、記録調査をしております。各種の展示会、ツアーバスなど運営しております。市民の皆様の共感を得るため、2025年を目指して世界遺産、ユネスコ登録を目指しています。そして、そのほか老朽化した過去の造船所村、芸術が融合している芸術創造村があります。そして、Jカトリックを複合生活空間として生まれ変わるよう、ピーコングラウンド事業も今後、今、ドラフトが完成している状況でございます。今後とも発展が期待されています。これまで、釜山型都市再生に関する全般的なご紹介をさせていただきました。本当に簡単にさせていただきました。時間をなるべく早くやれということでございましたので、前後まとまらないお話で申しわけございませんでした。

## ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

ありがとうございます。国会議員4期された先生です。蔚山市長も3期で、大邱市長も国会議員をされた方で、こちらにいらっしゃる方のうち、国会議員をさ

れた方が広域の市道知事、挑戦されるので、本当に我々危機感を感じています。立法もされて制度も担当された方なので、実践力においては本当に驚異的な力を持った知事の皆様でございますということで、釜山ならではの釜山型都市再生事業を韓国全域に拡大するに一助すると思われま。

それでは山田会長、次、日本お願いいたします。

### ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

ありがとうございます。では、次に日本側からは西原香川県副知事にご発言、発表お願いいたしたいと思ひます。

### ○西原義一香川県副知事

香川県の副知事の西原でございます。本日は、こういう韓国と日本の知事会議に出席させていただき、香川県の取り組みを発表させていただくことを厚くお礼を申し上げたいと思ひます。まずもって、今日は、今回所用があり出席できなかった知事に代わりまして、私から説明をさせていただきたいと思ひます。

香川県でございますけれども、先ほど伊原木知事からお話ありましたように、実は瀬戸内海を挟みまして、岡山県と対岸に位置する日本一小さい県でございます。岡山側から見る海は、実は香川県の海というふうになってございまして、面積的には陸地と海を合わすと今の倍ぐらいにはなるんじゃないかと思ひてござい

ます。韓国とは、高松空港と仁川国際空港の間を週5往復の定期便で結ばれておりまして、年間5万人前後の方が利用をしております。また、釜山港と高松港を結ぶ国際貨物航路というのございまして、海上でもつながっている状況でございます。

現在、人口減少問題というものがもう避けて通れない重要課題ということで、全国的にいろいろな取り組みがされてございまして、本県でも人口減少の克服と地域活力の向上を目的にさまざまな取り組みを進めております。基本目標を、この4つで進めておりますけれども、本日は目標の一つである基本目標3の地域の元氣を作るために不可欠な交流人口の拡大に向けた取り組みについて、ご紹介をしたいと思ひております。

まず、交流人口を増やすためには、香川県を知ってもらうということが必要になります。そのために、地域資源を活用したブランド戦略を取り組むということで、「うどん県。それだけじゃない香川県」プロジェクトということで取り組んでおります。実は、香川県はうどんの生産量及び県民1人当たりの消費量が全国1位でございまして、香川県といえばうどんというほど定着しております。しかしながら、その他の資源が全国的には認知度が低いという状況にござい

ます。そこで、1番のうどんをさらに強調することで全体的な底上げを図るという意味合いで取り組もうということで、香川県からうどん県に改名するという、想定したインパクトのあるプロモーションを行って、情報発信を行ったところでござい

うどん以外にこういった農水産物、県産物を売り込むかという内容でございますけども、農水産物、県産品いろいろございますけども、実はオリーブの生産が日本一でございます。そういったオリーブの実とか葉を使って、オリーブ牛、オリーブハマチといった畜産物、水産物を生産してブランド力を高めている取り組みを行っております。

また、伝統技術として、香川県には漆芸というものがございまして、蒟醬（きんま）、存清（ぞんせい）、彫漆（ちょうしつ）という3技法がございます。こういった技法を多くの漆芸作家がいらっしゃって、いろいろと作品を作っております。

また、それ以外に独自の資源を生かした産業ということで、県と大学と企業が連携をしまして、研究開発を進めてきた希少糖というものを取り組んでございまして、この希少糖というのはまさに珍しい糖という意味合いなんですけれども、甘いんですけども、太らない、いわば健康食品に近い糖でございます。今、まだまだ研究をしている最中ではございまして、そういった希少糖の商品開発とか研究開発などを支援して、香川の希少糖ブランドの確立に努めているところでございます。

また、観光資源としても「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で、最高評価の三つ星に格付されております大名庭園として有名な栗林公園でありますとか、全国でも最長級のアーケードが続く高松中央商店街の一つにあります丸亀町商店街というところで再開発を行いまして、その再開発をした成功事例という形で、この商店街が、今、全国から注目され、多くの方々が来られている状況でもあります。

そのほか四国遍路としまして、四国には弘法大師ゆかりの88カ所の霊場をめぐる、全長1,400キロにも及び回遊型の巡礼路がございます。古きよき日本の伝統的景観が生き続けておりまして、2015年には日本遺産に認定され、現在世界遺産登録に向けて、世界遺産国内暫定一覧表への追加記載を、四国挙げて国に対し要望しているところでございます。

こういった観光交流としてはさまざまな取り組みをしてございまして、国外の都市との交流協定を結んだり、G7の情報通信大臣会合を開いたり、また、日台の観光サミットなどの開催といったことにも取り組んでまいっております。昨年の10月には、第18回の日中韓3カ国地方政府交流会議エクスカースションにおいて、韓国のほうからも聞慶市の皆さんにもおいでいただいて、香川県でのうどん打ちの体験でありますとか、現存する歌舞伎の芝居小屋の中でも日本最古の金丸座というところを訪れていただいて、いろいろとコースを見ていただいたところでございます。

こうした従来の観光資源だけでなく、アートを生かした新しい試みとして、瀬戸内国際芸術祭というものを2010年から行ってございます。これは岡山県の島も含めまして、香川県両方合わせて12の島の人々と交わりながら、島々の歴史や文化を生かし、自然や暮らしに溶け込む作品をつくり出すことによって、その地域固有のコンテンツを通じた広域連携への可能性とか、地域活性化への取

り組みという形で取り組んでいるものでございます。ちなみに、昨年、瀬戸内国際芸術祭2016を開催いたしましたところ、104万人の方が来場いたしました。経済波及効果としては139億円、アジアやヨーロッパを初めとした海外からの来場者の増加など、開催の効果は大きく、また、島民の芸術祭への参加、島の伝統芸能を活用した島外との交流、さらには移住者の増加といった地域活性化にもつながっております。次回は、2019年に開催することとしてございます。

こうした交流人口の拡大を行う上で、やはり必要な基盤としまして、航空ネットワークの拡大にも取り組んでおります。現在、高松に空港がございまして、高松空港は海外4都市との間に直行便が就航し、また、羽田、成田などの主要国際空港とも結ばれておりまして、四国のゲートウェイというふうにもなっております。海外との週20便の往復による経済効果というものは、年間約80億円程度という調査結果も発表されております。2016年度、昨年度ですけれども、この国際線利用者数が前年同期比で約50%にもなっております。ソウル線の増便などもございますし、本県における外国人の延べ宿泊者数の伸び率は、2016年は前年比1.7倍ということで、全国1位となっております。ちなみに韓国からのおいでの宿泊者数は11%というような率になってございます。

現在、こうした高松空港については、乗り継ぎによる誘客が期待できる東南アジア、タイなどの重点市場を、タイを重点市場に位置づけ、現地において消費者向けや旅行会社向けに対象国、地域の最新の動向やニーズ等に応じた戦略的な情報発信とか誘客活動も展開しているところです。

また、受け入れ環境としまして、外国人の観光案内所の設置、さらには多言語による表記や情報提供の充実を図るほか、Wi-Fi環境、また洋式トイレの整備など、ハード、ソフト両面において外国人観光客の受け入れ環境の向上に取り組んでいるところです。こうした交流人口の増加ということが地域経済の活性化につながるようにさらに展開していきたいと思っております。

最後になりますけれども、来年2018年は香川、四国、本州を結ぶ瀬戸大橋、香川県と岡山県を結ぶ瀬戸大橋が開通30周年を迎えます。海峡部が10キロメートルあるんですけれども、12の橋でつながって、1つの一体的な橋として瀬戸大橋と読んでございますけれども、その橋が30周年も迎えます。是非、うんだけだけでなく、さまざまな魅力であふれる香川県にもお越しいただければと思います。

以上です。簡単ですけども、終わります。（拍手）

## ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

ありがとうございました。やはり共通の課題があるなと思っております。日本も韓国も少子高齢化を迎えていて、急速に人口が増えていくわけではない。そうしたときに、都市再生の基本として、交流人口をいかに増やしていくのか、それが面で行きますと都市を、また地域を再生していく上で大きな意味をもたらします。そして、そのときに交流人口を増やすためには、やはり付加価値をつ



けていくことが必要なのだと思います。アート、甘川文化村、私はちょっと違う時に見せていただきましたし、今日もお昼のときに海から釜山を見せていただきまして、アートの大きな写真があるのを拝見いたしましたけれども、そうしたものが新しい付加価値をつけていくことによって、新しい交流の可能性を見出していくところに、一つの都市再生の未来があるのではないかというお話でありました。

それでは、金寛容会長、進行よろしく願いいたします。

### ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

香川県の「うどん県だけではない」というのが面白かったです。

次は、李春熙世宗特別自治市長の発表です。建設交通部次官をされていたので、参考になると思います。発表をお願いします。

### ○李春熙世宗特別自治市長

3番目のご挨拶で、もっと貴重なご挨拶ができるかと思えます。

私は、世宗特別自治市の李春熙と申します。本日は、都市再生事業について、都市再生と関連とした事例としては韓国が真っ先に進めた自治体ということで、真っ先に釜山でまた発表できることを大変うれしく思います。

2年前に、2015年でございますが、世宗市のほうにて日韓知事フォーラムを開催していただき、また、その際に両国の共同の関心事項である少子高齢化の対策について、日韓両国で多くの議論がされました。我々の世宗市のほうでは、少子高齢化対策といたしまして、出産以降の対策にこれまでこだわってきましたけれども、日本側の発表によりますと、当時若者が結婚をしないという、また社会的な傾向があるのでということで、我が市のほうでも未婚の男女を対象として、毎月出合いの場を作るということで、我々もまねをさせていただき、大変好評を得ています。このように日韓両国の知事会が世宗市のほうにもいい影響を与えてくださいました。その際にいらしたくださった知事の皆様、ご覧になったのは世宗市の新都市、新市街地についてご覧いただきましたが、本日はこのように新市街地ではない農村地域と、大変小規模な邑（ユウ）という基礎自治団体の単位がありますけれども、そちらでされている都市再生事業について、本日は発表申し上げたいと思います。

我々世宗特別市は、政府主導で、これまでやはり行政都市ということで建設されています。2015年7月1日に公益自治団体として首都移転ということで始まりました。新都市が形成される過程の中で、新市街地と旧都心地域、都市と農村部のバランスのとれた発展がされていないということで二極化が浮上しました。衰退している我々旧都心地域、現都心地域を生かすために、若者青春鳥致院プロジェクトということで、都市再生事業を始めております。この青春鳥致院プロジェクトについて、それでは本日、ご紹介申し上げます。

こちら、鳥致院という邑でございますが、人口は4万7,000ほどでございますけれども、1905年度に京釜線鉄道鳥致院駅が入ることで都市が形成され

ました。1905年、この鳥致院駅が開業となり、人口が増えまして、2017年、邑という格上げがありましたけれども、ですが、まだ基礎自治体としては邑として残されている旧市街地となっています。それ以降、新都市が形成されているわけですが、鳥致院はその前ですけれども、燕岐郡を中心として、こちらは忠清道の中心的な役割を果たしてきたわけです。この鳥致院は京釜線鉄道が南北を貫くということで、東部と西部が断絶されてしまうという問題が生じました。そして、古い東のほうは現市街地ということで、今は衰退して、この東西間の二極化がより一層、新都市が入ったことで激しくなっています。また、周辺にこのKTX五松駅2010年開業となったわけですが、過去、鳥致院駅の京釜線鉄道駅は、この駅の近くにあるという周辺部、またあるんですけども、商圈までがともに衰退してしまいました。鳥致院の中心部は、過去、市役所、教育庁など議会もありましたけれども、そちらが全て新都市部のほうに移転したことで、鳥致院の中心部は人口、事業者の数がともに減少、そして老朽化した建物数は増加するというので、大変衰退しています。また、新都市とこのように比べられることによって、新都市は先端都市として、新たな町として発展をし続けているということなんですが、鳥致院邑に暮らしている旧市街地の皆様は、その新都市部のような、そういう利便施設がないということについて大変不満があるような状況です。なので、我々は住民とともに、この青春鳥致院プロジェクトを始めました。

3年前でございますが、10月2日でございます。市長として就任をいたしまして、都市再生事業をどうするべきかという問題について、住民の皆様と協議をし、活気あふれる経済、幸せな住民、青春鳥致院という名前で青春鳥致院プロジェクトを始めました。目標は、当初2025年まで1兆3,000億ウォン余りを投入し、鳥致院を人口10万居住できる若くて活気あふれる都市にするという、中長期都市再生事業でした。この青春鳥致院というフレーズからもおわかりいただいていると思いますが、既に老朽化している、年をとっている、ある意味都市に青春を戻すというプロジェクトでございます。

私は、この青春鳥致院プロジェクトを行うことで、韓国の都市再生の新たなモデルを韓国に作ろうと思っています。まず、何よりも重要なのは住民の皆様がみずから、この地域問題を診断をしてくださり、解決方策を模索するようにしたいと思っています。そして、行政のほうはこれをサポートするという方向で運営をしてみたいと思っています。そして、最も重要なのは、自立型市民参加型である市民大学がございまして、都市再生大学というものができました。1期が8週間ということで、1つのテーマでもって議論をするということでございます。問題診断をして解決策を作って、住民の皆様がその解決策を提示をくださった場合、市がフォローアップをするという方式で、この世宗市都市再生大学というものを運営しております。そして、住民が自ら、この事業ができるように専門家が後ろで支えるという方式でシステムを立てました。こちらは、青春鳥致院プロジェクトをまず進めるために、世宗特別自治市では先端タスクフォースチームである、青春鳥致院課という部署を实际作りまして、4つの分野、50余りの、今、プロジェクトを進めています。今、4つの分野とは都市再生、古い定住環境を

改善する都市環境分野がまず1点、そして、道路や駐車場などを確保するなどインフラを構築するインフラ構築、そして、文化構築、地域経済を拡充するということ、地域経済ということで4つの分野に分かれています。我々、市が当初やろうとした事業は、計22の事業でしたが、3年間住民の皆様が新たに発掘をしてくださった課題が34追加となって、今現在、56の課題が同時進行で推進されているという状況です。青春鳥致院プロジェクトは、地域住民の皆様、専門家の皆様が100人で構成される鳥致院発展委員会というものを立ち上げてくださいました。住民の皆様が中心となるガバナンス体制を実際構築され、彼らが中心となり全ての事業をリードしているという状況です。ただ、住民の皆様が専門性というものがございませんので、都市再生センターというものを中間に置き、専門家マスタープランを置いて、専門家が住民の皆様の活動を後ろで支えるという体制を組み努力しています。申し上げましたけれども、結論的に住民の皆様が本人の問題を自ら診断をされ、また合意をし、解決をしていくという、この3段階でもって業務を進めていて、市はこちらをフォローアップするという形態という理解でよろしいかと思えます。

特にこの都市再生支援センター、中間組織ですけれども、都市再生大学をまず運用し、町の活動家を育成し、都市再生実務をさせるなど差別化した中間組織を運営することで、住民の皆様の力量を育てるということを最優先しています。そして、住民中心のこのガバナンスを構築し、都市再生支援センターを通じまして、住民の皆様を育てて3年たちますけれども、住民の皆様の考え方といひましょうか、変化しています。住民の皆様が、この都市再生事業をリードされています。実際、事例が出てきたので、最後のほうでご紹介させていただきます。

まず、この鳥致院刈刈という鳥致院の中でも最も古い町が1つありまして、3年間持続的に、住民の皆様が都市再生大学に入ってくださいすることで、実際使ってらっしゃる、この町会館を博物館に変えて、その町で持っているいろいろなものを秘蔵してくださるなど、博物館として運営をしています。こちらが町共同体の中心として、また、大きな役割を果たしています。そして、縫製工場が昔あった朴通りというところがございます。こちらは過去10年間、手放しという状況でございまして、誰ひとり暮らしていないような、犯罪が起きるような地区となってしまったんですが、ですが、商工人が前面に出て、例えばミシンの教育を実際受けて協同組合などをつくって、暗々しい町を活気あふれる町に変えました。特に、この通りは多文化家庭の皆様が結構いらして、アジア、ハーモニー協同組合というものを彼らが立ち上げて、多文化間体験館を立ち上げました。多くの方々が、開館したことで多く訪れてくるような明るい町となりました。こちらは、日本系、中国、ベトナム、フィリピン系といったさまざまな民族の皆様が参加をしてくださっています。

そして、過去、燕岐郡のほうで最も活気あふれた商店街がワッワ通りというところがございますが、こちらの通りは、周り、衰退したいということで、こちらは商工人の皆様が中心となり、都市再生大学、同じく参加をしてくださり、掃除もしたり、このように植物を植えたり、フリーマーケットを運営するなど、活気あ

ふれる若者の通りとして生まれ変わっています。このところ、行政安全部の主管でもって、2018年度、安全な歩行環境造成事業という公募がありまして、7つの事業があったんですけども、全国の中で1位事業として選定をされる快挙がございました。なので、来年も安全な歩行の環境を作るということで、事業が継続する予定でございます。

そして、過去3年間、住民の皆様となし遂げた主な成果がございます。こちらでも申し上げたいと思うんですけども、新たな業務施設が、元都心誘致をすることで、まず雇用をつくろうと思ってしまして、まず、イメージを改善し、阻害されている地域ということではなくて、北部圏の経済中心軸として基盤づくりをいたしました。雇用、福祉プラスセンターというものを立ち上げて、ポリテック大学など、19の機関を、元都心の鳥致院に誘致いたしました。そして、経済中心軸として鳥致院を育成するために、7万平方メートルに当たる規模の新市街地を、また造成中でございます。こちらに多くの、恐らく雇用が生まれるのではないかと期待を寄せているところです。また、こちら、新都心を中心としまして、新たな住居環境が今後つくられるので、元都心部であった鳥致院のほうで、新都心のほうに移住をしてしまう問題がこれまでありました。なので、鳥致院内部のほうにも、この幸せ住宅、そして、高齢者の皆様がいらっしゃるので、対象とした公共のシルバー住宅を建てるという事業も立ち上げ、工事が、今、進められています。あと鳥致院が抱えている問題ですけども、道路が狭くて駐車場がないということで、商圈がそれによって死んでしまうというものがあるので、そういう交通問題を解決するため、京釜線鉄道が今後運営されないということで生じている、この鉄道レールの下に道路をつくり駐車場として利用したりしています。特にカキイ駐車場という名前をつけて、多く、今、駐車場を作っているんですが、314面が作られました。交通難に寄与している状況です。

そして、鳥致院の顔と言える、この鳥致院駅の周辺部ですけども、まず画期的に改善をしなければいけないという診断でした。本日、実はこの事業竣工式ということで、セレモニーがあるんですが、私、この会議のため映像のメッセージしか残せませんでした。こちらに、本日座っております。鳥致院の前の広場を整備いたしました。この広場で多くの文化活動をするという条件をしてしまして、その広場、清州のほうに出ていくルートが、今、往復4車線ですが、私の欲としましては車のない通りを作りまして、商圈を生かそうと思いました。ですが、この交通問題、やはりこれ、全部塞いでしまいますと流れがよくないということでございまして、商工人の皆様の反対に、私ぶつかってしまいました。ふだん車が通れるようにはするものの、人と車の通りの境界地をなくしてブロック型車線にしまして、ふだんは植物などで区別をして、特別なイベントがある場合は、そういう車道部として全部使うというようなタイプで広場をさまざまな活用の仕方として運用をする計画です。そして、終末部は全部通行止めとしまして車のない通りとして、皆様、歩いていただけるような、そういうイメージを持って合意を取りつけることができたんですが、その合意まで2年かかりました。ですが、やっと合意に至って、本日竣工式ということでございます。本日、その記念セレモニ

ーが、今、この時間行われている最中です。そして、商工人はこちらの通りが今後さらに活性化すると期待を寄せている状況でございます。

この青春鳥致院プロジェクト、今後さらなる拡大のために、住民の皆様は一層課題を掘り下げてくださると思います。なので、今後ともこれを支障なく進めていく計画です。そして、中央政府のほうで、都市再生ニューディール政策というものを進めているので、政府政策とつなげて、これをした場合には、世宗市が進めているこの都市再生事業といたしましては、邑単位の農村地域がございますが、そちらの都市再生を行うということで、定住環境を改善するという韓国でも良い事例として残るのではないのでしょうか。これまで、私、世宗特別自治市の特殊な事例を選んで、本日参りましたけれども、恐らくこちら都市地域と農村地域の中間地域でございます。そのような大変小さな地域の都市再生事例について、大変ユニークと言える、そういう参考資料ではないかと思い、ご報告させていただきました。皆様、ご参考になりましたでしょうか。

以上です。ありがとうございます。（拍手）

### ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

まず、李春熙市長、ありがとうございました。本当に具体的な事例について発表してくださいました。

韓国の市道知事協議会にとっても、これまで報告の入っていない、本当にホットな事例で、本当に今日はありがとうございますということをお伝えしたいと思います。

そして、この青春鳥致院プロジェクトは新たなガバナンス体制を構築し、そして、地域の特徴を生かした本当に貴重なプロジェクトではないかと思います。この青春鳥致院、今後出会えることを期待しています。

それでは、ただいまから自由討論を行いたいと思います。大変時間がございません。残りの時間、30分程度でしょうか。発言される方々、手を挙げてくださり、順番問わず自由にいただきたいと思います。

### ○金起炫蔚山広域市長

蔚山です。岡山県の伊原木知事に質問です。ビジネスマン出身であるだけに、ビジネスに詳しいご内容だったと思って、非常に興味深い内容でした。岡山県の場合、103ページになりますけれども、新規企業を誘致するために敷地をつかって、投資を誘致するためのプロジェクトを進めているというお話でしたけれども、日本も同じだと思いますけれども、韓国の場合も首都圏と非首都圏の間のいろんな偏差、格差があります。首都圏に集中している傾向があるのが問題です。人口も金融も資本も、そして産業も、全ての交通網、全て首都圏に集中しまして地域経済を活性化することが難しい課題の一つとなっています。

蔚山広域市の例を挙げますと、人口からは過去全体の2.2%の人口を持つ小さな規模ですけれども、工業生産の14%を占める、非常に産業化している町です。人口に比べて6倍の、7倍ぐらいの生産を出している、産業化している町な

んですけれども、にもかかわらず、首都圏と非首都圏という格差の問題で産業の発展に大きな問題が発生しています。ですので、企業を新規誘致したり、投資を誘致する上で、今、経済がちょっと低迷をしておりますので、非常に誘致に苦しんでおりますけれども、私が岡山県知事にお聞きしたいのは、このように新規企業を誘致したり投資を促進する上で、岡山県の場合はどのようなインセンティブを与えているか、そして、土地を無償で与えるとか、税制面での優遇はどれぐらいなのか、そして、岡山に立地しようとする企業にとってはどういう強みがあると強調していらっしゃるのか、それをご説明いただきたいと思います。

### ○伊原木隆太岡山県知事

ありがとうございます。私の時間が足りなくてはいったところを補完してくださることに、大変感謝したいと思います。

実際のところ、それぞれの地域をアピールして活力を増していくことは、すごく大事なことだろうと思います。岡山の場合は、すごく条件が良かったにもかかわらず、アピールができていなかったところがございます。ですから、申し上げましたように、実際はこうなんですよ、こんないいところがあるんですよということをきちんと伝えることが大事です。来てもらうのではなくて東京とか大阪とか、最近では名古屋とか、そういうところに出かけて行って、私自身がプレゼンテーションして、その後2時間ぐらい、直接質問に答えたりします。その中で、へえ、そうだったのかということ、もしくは実際に立致した方の感想として、良かったこと、ちょっと厳しいところ、でも、これはこうやったら大したことなくなったなど、いろんな事例を正直にお知らせしています。ああ、それじゃあだめだっている業種の方、会社の方もいらっしゃいますが、ああ、その程度だったら我々にとっては実は関係ないんだという方もいらっしゃいます。やっぱりきちんと説明することは大きいということを実感いたしました。

あと、実は世間一般的に弱みとされているものが強みに変わることもあります。そうそう都合よくはいきませんけれども、例えばですが誘致がうまくいってない場合、失業率が高いことは、これ自体良くないことですが、ただ、優秀な人が採りやすい、もしくは優秀な人が比較的安く雇えるということでもありますので、今の工場で優秀な人が見つからないという人にとっては、ここに来ていただければ、その心配はないですよということが可能となります。意外と業種によって、会社によって、悩み事が違っており、毎回ではなく、1割だったり、それよりも低い確率かもしれませんが、実は我々の地域があなたにとって、すごくいいソリューションになるんですよと言える場合が時々ございます。そういう組み合わせを見つけると、元ビジネスマンとして非常にうれしいわけです。岡山の場合、条件が良かったというのがありますが、ほかの地域ではまだまだ、工夫の余地があるものと思っています。

実際、私が知事になってから、少しインセンティブを増やしました。そんな大したことではなくて、これまで、開発するのにかかった費用から、面積割りで求めた値段が余りにも高過ぎて、ずっと売れ残っていたので、10%安くしますよ

ということをしたのも少し効きました。実際には説明をしっかりとしたほうが効いたのではないかと考えており、今は、これ以上値下げすることはないようにしています。そもそも在庫が少なくなっているのが悩みですので、値下げではなくて説明して売るということで頑張ってます。ありがとうございました。

#### ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

鳥取県知事さんからどうぞ。

#### ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

良い、すばらしいご発表ありがとうございました。大邱市長もいろいろアイデアをお持ちの方なんですけれども、今日、いかがでしょうか。

#### ○平井伸治鳥取県知事

先ほど徐秉洙市長様から大変貴重なお話をいただきましたし、今日は、ここがいろいろと軍の管理の関係もあったことから、こうやってリゾートとして生まれ変わった。さらには釜山港を拝見させていただきまして、本当に高層ビル群ができるぐらいに発展をした、そういう中で、東西の地域のバランスをつくっていきこうと、先導的なモデルを実践しておられることに、まず敬意を表させていただきたいと思います。それをどのようにファイナンスをされたのか、つまり多くのマンションなどは民間投資を呼び込んだのではないかと思います。どうやってその辺を誘導されたのか、あるいはまた、特に旧市街地を再整備していく、それに公的パブリックセクターとプライベートセクターと、それぞれどのようにファイナンスを分担したり調整されたのか、その手法には国会議員をされた経験が生かされたのではないかと思います。その辺をご教示いただければありがたいです。

また、李春熙市長様のほうでは、昨年はずばらしい新都市を拝見させていただいた上に、今日は、むしろ昔からの町を再整備していくお話をいただきました。大変に参考になりました。確かに青春を取り戻すという言葉、そのとおりではないかなと思います。「Youth is not a time of life, it is a state of mind」、これ、サミュエル・ウルマンという方の言葉でございますけども、「青春というのは人生のうちの一つの時をいうのではなくて、心のあり方をいうのだ」と。単に時が経ちどんどんと町が廃れていく。また、それは人間がやる気をなくてしていく、それをもう一度新しい時代を作るために、みんなで青春を取り戻す、心の持ち方を変える、そんなところから出発して、あのようなすばらしい町の再生につながったのではないかと思いますし、本日、その一つの中心地が誕生したことをお祝い申し上げたいと思います。

その中で、先ほど非常に興味深かったのは、都市再生大学というスキームを作られたお話です。この都市再生大学は、具体的にその学術的な大学や研究者が市民に対して地域づくりのあり方を教えたのか、あるいは地域の方々がお互いに集まって意見交換をする場として作られたのか。その具体的な仕組みを教えてください。

だき、それがどのように先ほどのコミュニティー再生の原動力になったのか、影響を教えてくださいと思います。

### ○徐秉洙釜山広域市長

それでは、まず先に釜山市が東部のほうの観光地開発、また、西部の大規模産業団地ですとか、都市を開発する計画を今進めている状況でございます。東釜山観光団地の開発について申し上げますと、100万坪ほどの敷地でございますが、基盤造成ですとか団地を造成するというのは、都市公社という市が所有する公社を作りまして、そちら、公社を中心として起債ということで財源づくりをし、執行をとっている状況でございます。なので、その後がまた重要でございます。100万坪ほどの観光団地の中にどのような民間が入れば一番いいのかということを考え、綿密な計画をまず立てて、相互補完ということで相乗効果を出せるような徹底した計画がまず必要だということで計画を立てました。それに合った民間業者を誘致でもって、その土地を分譲いたしました。そして、民間のほうで建設を、建てたということなんですけど、今ご覧になっている、昨日、今日、ご覧いただいておりますけれども、こちらもそうですが、ロッテショッピングモールがありました。そして、ホテルを含む観光レジャー施設が入るといふ敷地ということで、ほぼ分譲が完了しております。工事が進んでいます。今のところ、分譲を終わっているのがほとんど90%以上ということでございます。ほとんど事業が順調に進んでいるという状況でございます。

そして、この都市再生の基本的な住居環境改善という部分があります。そちらから私たちも出発いたしました。ですが、そちらが商業団地、工業団地のほうに、そのいざ自体が広まっており、都市再生事業支援をしているんですけども、初期に、この住居環境につきましては、私が申し上げましたように、若干スラム化していて、住居環境の改善が必要なんだと判断される町があれば住宅組合を作るとかして、ほとんど撤去させて、高級マンションを建てて分譲をするというやり方をとってきました。ですが、そういうやり方は今後望ましくないという認識ができて、また、釜山が持っている、そういう地形的な特徴というものがあります。平地ではなくて、釜山は、この本当に山岳部からおりてくるような丘も結構あってということで、地形的に大変ある意味脆弱な、安全においては脆弱な、そういう弱点も持っています。なので、これ以上大規模な建設ということで、町再生事業は厳しいという状況だったんです。大規模、マンション団地を平野にして作るということは厳しかったので、大変小さな、小さなこの町単位、その地域に住まれる方々が引き続きそちらに住んでいただけるような環境づくりが重要なんだという政策に切りかえました、以降。そのためには、まず基本的に小さな都市基盤施設については、まず市のほうで財源をつくって、例えば道路を敷いたり、小さな駐車場をつくったり、もしくはコンプレックス施設などをつくって、町の皆様が、その町の中で話し合いながら、本人の町は本人が作っていくというような計画づくりにし、執行をし、評価をするという過程を作ったんです。そういう拠点施設を我々が予算を編成いたしまして、支援をしているような状況でござ



ざいます。

### ○李春熙世宗特別自治市長

すばらしい質問を私にもいただきましてありがとうございます。実は、この青春というものは、年が何歳かということではなくて、頭の中の考えが何歳なのかということが重要だと思います。若者のように考えて行動をとれるのかということ、それでもって青春なのか青春ではないのかが決まると私は見えています。私、そういう皆様の判断が正しいというふうに申し上げたいと思うんですけども、ただ、この都市も人間と大変似通っている側面を持っていると思います。都市というものも生まれて成長を遂げて、そして年をとって、そういう過程の中で老けていくわけです。ですが、都市というのは具体的に、この都市の血管と言えのが道路なわけです。血管が詰まりますと道路が狭くて疎通が人間もできないように、都市部もやはり人間が年をとるような高血圧の症状が都市部にもあらわれたりということが起きるわけです。なので、都市もそういう観点から、こういう若い空間として生まれ変わるべきだということ、空間が若返りをすると、そちらで暮らしている方々の考えも若返って、皆様の考えが変わると、都市空間もそれによって変わるという、そういう2つの側面が同時進行で行われるべきなんです。先ほど釜山の徐秉洙市長のお話にもありましたが、過去はこの都市というのが本当に老朽化していて、それを再生すると、撤去させて全部最初から引き直しということだったんですが、老朽化して、住居環境が劣悪だっているのは、実際の問題はそちらに暮らしているいらっしゃる皆様の所得水準が低いということで、これ以上住めないということが問題なんです。なので、建物さえ新たにすればいいということではなくて、果たして、彼らが建物が生まれ変わったことで、暮らしの質が改善するのでしょうか。そういうことを考えると、今現在、そちらに暮らしているいらっしゃる皆様、そういう居住者の考えがどういうものなのか、彼らが何を望んでいるのかということを経度的にも掘り出して、やれることから我々が見つけるということが一番重要だと思っています。なので、そういう観点から始められたのが都市再生大学なんですけれども、この大学は町という単位から始めて、町単位、15人、20人ぐらいが集まって、町の方々がその町の問題点について議論して、解決策を独自で作るということです。8週間という時間を置いて、今、8期目の学生を迎えているんですけども、8週間たちますと、その問題点をまず診断することができ、ほかの例えば釜山、甘川周りですとか、そういうほかの地区の現場視察も実際され、それを反映して討論して解決策を探すわけです。ですが、町の方々だけではきちんとした答えが出せないんで、そのクラスがあって、大学の中に、大学の教授の先生ですとか、そういう方々を我々がお一人ないし、もう少し状況ですとか、そういうふうに我々が招聘いたしまして、8週間たちますと、そのクラスの中では本人の町の問題点、診断をして解決策まで作るという過程になります。それでもって、市のほうで提案をいただいて、市はその提案が適しているものなのかということを経断して、そうであるとすれば支援をします。ですが、この8週間で2カ月で終わるのではなくて、2カ月だけじゃ足り

ないんで、以降、受講申し込みを受けて引き続きやるということをやらなくていいんですけども、今8期目を迎えていると申し上げました。今回は150人ぐらい申し込んでくださっています。月10人から、もしくは20人ぐらいが受講しているような状況です。町の住民の皆様を1つに集める結束力を持たせるということでは大きな役割をしています。そして、実際、事業をするにおいて、町の方々が事業の進行について、異議を唱えるということになると、都市再生はオールストップなので、事業を始める前に町の方々が完璧と言えるほどの合意をまずするということが本当に重要です。都市再生大学は、その一番重要な合意点を見つけるという役割をするにおいて、すばらしい機関となっています。

以上です。ありがとうございます。

### ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

質問が非常に深い内容で、青春に対する概念も鳥取県知事が定義をしてくださいました。そして、それに対する答えがまたすばらしい内容で、都市再生について、都市のサイクルについてお話をしてくださいました。本当にすばらしい質問とお答えでした。

そして、徐秉洙市長は特化して、また事業をされたということ、そして、再生大学に関する概念、本当に重要な内容だったと思います。

大邱市長、いかがでしょうか。

### ○権泳臻大邱広域市長

私にも発言の機会があるんですか。山田啓二会長を初め、日本の知事の皆様にこのようにお会いできまして、大変にうれしく光栄に存じます。

本日、各日本の自治体、韓国の自治体のお話をお聞きして、日本には本当に行ってみたいところはたくさんあるなと思いました。そして、各自治体、各都市がその地域の特色を生かして発展させ、そして、それをマーケティングするために多くの努力をされているということを感じることができました。そして、時間があれば、今回の知事の皆様の町は是非行きたいと思っております。是非そうさせていただきます。

大邱市は、釜山から北へKTX高速鉄道で1時間、ソウルからは1時間40分のところに位置する、韓国の中南部に位置する人口250万人の町です。産業は伝統的には繊維産業が有名だったんですけども、近年になりましては電気自動車を始めとする未来型自動車、そして水産業、そして医療産業、こういった新産業を集中的に育てている都市でございます。日本とは、今現在、神戸市と友好協力都市を結んでおります。そして、広島市とも姉妹提携を結びまして、毎年、私たちの文化経済使節団が広島と交流をしています。

日韓関係が一番悪かった時期、2年前だったと思うんですけども、そのときも広島市と大邱市はチャーター便を飛ばして、国間の関係は悪いときもあれば良いときもあるので、地方自治体間の関係は国との関係とは関係なく、引き続き交流を続け、友好交流を引き続きやっていくことがあれば、国の関係もよくなる原

動力になるというふうに思いました。

本日、午前第1セッションにおきましては、日本の災害対策について非常に徹底した対策、古い歴史について大分お勉強することができました。大邱市の場合、災害、災難においては非常に安全な町だと言われてはいますが、近年は気候変動によりまして、韓国のどの町も安全とは言えない状況になっています。そして、地震もなかったんですが、慶州、蔚山で最近地震がありますので、日本の災害対策のモデルは私たちに非常に有効な勉強になると思います。今日は時間が限られておりますので、多くのことを質問することはできないかと思っておりますけれども、知事の皆様に今後いろいろ知恵を分かち合っていたいただきたいと思います。

都市再生につきましても、大邱も旧都心が非常に衰退しています。都市の76%が旧都心で、新都心は24%にすぎないのが大邱市です。ですので、旧都心につきましても、大規模開発ではなくて歴史と文化を復元しながら、都市を再生させる小規模開発の形で、今現在進めている都市再生事業が、57が、今、事業として進められている状況です。ですので、旧都心は再生、新都心は開発という2つの軸を持って都市再生を進めております。チャンスがあれば大邱市に是非お越しいただきまして、大邱が都市再生を通じて、歴史と文化を復元した事例について、皆様に、観光地も今なっておりますので、韓国観光の百選にも選ばれた通りがありますし、有名な歌手を募る、そういう町もありますので、ぜひとも皆様お越しいただきたいと思っております。

本当に今日は皆様にお会いできて光栄です。ありがとうございました。（拍手）

#### ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

時間が大分たっておりますので、夜を更かしまで皆様とお話をしたい気持ちではありますけれども、本当に皆さん、いろいろ研究もされていらっしゃるし、国と地域を考える気持ちも非常に実感することができました。

それでは、山田会長に締めめの言葉を頂戴したいと思います。会長、よろしくお願ひします。

#### ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

ありがとうございました。

本当にあつという間に時間が過ぎたということでありまして、大変有意義な意見交換ができたと思います。私が今回一番感じましたのは、やはりお互い共通の問題や課題を抱えていて、共通の悩みを持っているということであり、そして、それに対して日本も韓国も、地方公共団体が必死になって向かい合っているということを感じました。それだけに、これまで以上に情報の共有や施策の共有化を進めていかなければならないと思っています。

実は、私ども全国知事会でも色々なことをやっているのですが、私どもが政策を共有するためにやっていることとして、都道府県の先進政策事例を集めて、毎年、優良政策を選定し、表彰式を行い、そしてそれをデータベースに蓄積

しております。この中には、今日出てこなかったような先進政策も詰まっております。今日もお話をお聞きいたしまして、韓国の都市再生のあり方など、非常に思い切った形で大変進歩的な施策を講じられておりますので、こうした事例もそういう中で情報交換できたら本当に両方の基礎が、しっかりとうまく絡み合っていて、一段と共通の理解が進むのではないかと思います。この日韓の知事会議がこれからも日本と韓国の共通の政策、共通の理解を醸成して、その中で日韓の友好のために大きな役割を果たせるように私どもも努力をしていくことを申し上げます、総括の言葉にかえさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。（拍手）

### ○金寛容GAOK会長（慶尚北道知事）

私が、それでは最後の締めとなりました。長時間、本日、会議にご参加くださいました韓国と日本の知事の皆様、市長の皆様、大変お疲れさまでございました。そして、会議を同時進行で行っていただきました山田会長、すばらしい進行で本日は大変多く学ばせていただきました。ご尽力ありがとうございます。

そして、討論と事例発表につきましても、皆様、感じていただけたと思います。国の問題、地域の問題というのが常に共存しているということ、そして、未来を話すにおいて、大変重要なポイントであるということ、こういう新たな地方化時代が切り開かれていると思います。より住みやすい、そういう地域に向かう転機を我々迎えていると思います。全ての分野で交流という枠組みができてきているような気がいたしまして、今後とも協力賜りたいと思います。私もこの討論を聞きながら、知事の皆様お一人お一人会いたいなど。大邱のほうは人を送って全部回るとおっしゃいましたが、ちょっと分けましょう、担当する町を。ということで、広域自治体分けて、今後ちょっと参考にさせていただきたいと思います。

私ちょっと初めより、今、皆様と大変仲がよくなったと、私一人だけでしょうか、そういう感想です。我々も大変業務で忙しいんですが、このように、また日本の知事の皆様ご参加くださいますありがとうございます。長時間、情熱を込めて、その時間、時間ベストを尽くしてくださいました皆様、感謝申し上げます。ありがとうございます。以上です。（拍手）

### ○司会

両国の会長、感謝申し上げます。

それでは、続きまして、本日の会議の成果を盛り込んだ日韓共同宣言文署名式を行いたいと思います。

山田会長、金寛容会長、壇上の上のほうにご着席願います。そして、署名式に先立ちまして朗読をいたします。

それでは、日韓知事会事務総長より朗読いたします。

## ○権GAOK事務総長

—韓国語で共同文書読み上げ—

## ○古尾谷全国知事会事務総長

未来志向的的地方交流協力関係構築のための第6回日韓知事会議共同発表。

2017年大韓民国、釜山広域市において第6回日韓知事会議が開催された。

日本側6名、韓国側6名、計12名の両国の知事・市長等が参加し、日韓地方行政の懸案に対して深い意見交換を行った。

日本と韓国は長い間の交流の歴史を通じて友情と協力を積み重ねて来た隣国だ。北の核の危機が潜む東アジアにおいて日韓両国の緊密な協力はより一層重要な意味を持つ。

特に日韓両国地方政府間の交流は市民参加を基に行政、経済、文化など多様な分野で持続的に推進されており、両国民間の信頼の根幹になるだけでなく、国家間の協力関係を強化する契機になっている。

「第6回日韓知事会議」では、「災害対策及び復興施策」「地域経済活性化のための自治体の都市再生への取組み」というテーマの下、多様な事例発表とともに活発な討論がなされた。この過程で両国地方政府が行政現場で抱えている課題に対する共同の悩みと、これに対する解決策の模索を通じて未来志向的交流のモメンタムを形成する意義深い場となった。

又、両国の懸案問題である少子化、高齢化、地方消滅、都市集中現象などの解決に共同の努力を傾けることとし、実質的な協力の枠組みを準備することに最善を尽くすこととした。

両国地方政府は、「第6回日韓知事会議」で両国関係の未来志向的協力パートナー関係発展のために行政全般にわたって、より深化した協力関係を構築することで合意した。また、2019年の第7回日韓知事会議を日本で開催し、両国地方政府間交流と協力をより一層強固にすることにした。

2017年11月3日。

日本全国知事会会長、山田啓二、大韓民国市道知事協議会会長、金寛容。（拍手）

## ○司会

拍手で賛成の意を表していただきたいと思います。

この文案にしたいと思います。それでは、署名をお願いいたします。

## ○司会

以上をもちまして、第6回日韓知事会議を終わります。

6時の予定どおりに金寛容会長主催の歓迎晩さん会が用意されています。各知事の皆様は、スタッフの案内に従ってご移動願います。そして、冬季五輪マスコットとの記念撮影をまだされてない方は、ぜひ撮影をお願いいたします。

以上です。ありがとうございました。

## 2. レセプション

【日 時】平成29年11月3日(金) 18:00~20:00

【場 所】ヒルトン釜山 ミーティングルーム1

【参加者】（全国知事会）

山田啓二全国知事会会長（京都府知事）、福田富一 栃木県知事、  
平井伸治鳥取県知事、伊原木隆太岡山県知事、西原義一香川県副知事、  
里見晋長崎県副知事、古尾谷光男事務総長、道上尚史在釜山日本国総領事  
（大韓民国市道知事協議会）

金寛容大韓民国市道知事協議会会長（慶尚北道知事）、  
金起炫蔚山広域市長、李春熙世宗特別自治市長、徐秉洙釜山広域市長、  
權泳臻大邱広域市長、韓徑浩慶尚南道副知事、權泳洙事務総長、  
趙百相国際化支援室長、金浩燮分権政策局長、朱重徹慶北・国際関係大使

## V 視察（行政視察）

【日 時】平成29年11月3日(金) 10:00~11:20

【場 所】甘川（カムチョン）文化村

もともと朝鮮戦争の際に避難してきた人々が住む集落から町おこしに成功した「甘川文化村」を視察した。

【参加者】（全国知事会）

福田富一 栃木県知事、伊原木隆太岡山県知事、里見晋長崎県副知事、  
古尾谷光男事務総長 他

## 未来志向的地方交流協力関係構築のための 第6回 日韓知事会議 共同発表

2017年大韓民国、釜山広域市において第6回日韓知事会議が開催された。

日本側6名、韓国側6名、計12名の両国の知事・市長等が参加し、日韓地方行政の懸案に対して深い意見交換を行った。

日本と韓国は長い間の交流の歴史を通じて友情と協力を積み重ねて来た隣国だ。北の核の危機が潜む東アジアにおいて日韓両国の緊密な協力はより一層重要な意味を持つ。

特に日韓両国地方政府間の交流は市民参加を基に行政、経済、文化など多様な分野で持続的に推進されており、両国民間の信頼の根幹になるだけでなく、国家間の協力関係を強化する契機になっている。

「第6回日韓知事会議」では「災害対策及び復興施策」「地域経済活性化のための自治体の都市再生への取組み」というテーマの下、多様な事例発表とともに活発な討論がなされた。この過程で両国地方政府が行政現場で抱えている課題に対する共同の悩みと、これに対する解決策の模索を通じて未来志向的交流のモメンタムを形成する意義深い場となった。

又、両国の懸案問題である少子化、高齢化、地方消滅、都市集中現象などの解決に共同の努力を傾けることとし、実質的な協力の枠組みを準備することに最善を尽くすこととした。

両国地方政府は「第6回日韓知事会議」で両国関係の未来志向的協力パートナー関係発展のために行政全般にわたって、より深化した協力関係を構築することで合意した。また、2019年の第7回日韓知事会議を日本で開催し、両国地方政府間交流と協力をより一層強固にすることにした。

2017年11月3日

日本全国知事会 会長  
山田啓二

大韓民国市道知事協議会 会長  
金寛容

山田啓二

金寛容